

CF01334205/ed

Appl. No. 09/255,782  
EAU. 2/82

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
in this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application:

1998年 3月 9日

出 願 番 号  
Application Number:

平成10年特許願第057268号

出 願 人  
Applicant(s):

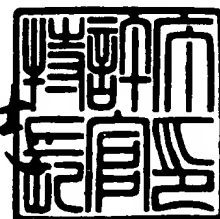
キヤノン株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

1999年 3月19日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

伴佐山建志



【書類名】 特許願

【整理番号】 3710009

【提出日】 平成10年 3月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 12/00

【発明の名称】 データ通信システム、データ通信装置、データ通信方法及び記憶媒体

【請求項の数】 32

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社  
社内

    【氏名】 波多江 真一

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社  
社内

    【氏名】 小林 崇史

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社  
社内

    【氏名】 新井田 光央

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社  
社内

    【氏名】 大西 慎二

【特許出願人】

    【識別番号】 000001007

    【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100090273

【弁理士】

【氏名又は名称】 國分 孝悦

【電話番号】 03-3590-8901

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 035493

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705348

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ通信システム、データ通信装置、データ通信方法及び記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の機器により構成されたデータ通信システムにおいて、前記複数の機器に含まれる N 個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第 1 の情報と、該 N 個の機器間において通信される情報データを判別する第 2 の情報とを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載のデータ通信システムにおいて、前記データ通信システムは、前記第 1 及び第 2 の情報を管理する機能を具備する管理機器を含み、該管理機器を用いて前記 N 個の機器間の通信を制御することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 3】 請求項 2 に記載のデータ通信システムにおいて、前記管理機器は、前記 N 個の機器のそれぞれに、前記第 1 及び第 2 の情報を送信することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 4】 請求項 3 に記載のデータ通信システムにおいて、前記管理機器は、前記第 1 及び第 2 の情報とともに、該管理機器に固有のユニーク ID 情報を前記 N 個の機器のそれぞれに送信することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 5】 請求項 4 に記載のデータ通信システムにおいて、前記 N 個の機器は、前記ユニーク ID 情報を用いて前記第 1 及び第 2 の情報を設定した管理機器を識別することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 6】 請求項 2 ～ 5 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記管理機器は、IEEE 1394 規格に準拠した Asynchronous 転送方式を用いて、前記 N 個の機器のそれぞれとの通信を行うことを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 7】 請求項 2 ～ 6 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにお

いて、

前記管理機器は、前記第 1 及び第 2 の情報に関する付加情報をテーブルを用いて管理することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 8】 請求項 2～7 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記 N 個の機器は、前記第 1 及び第 2 の情報により構成される通信パケットを用いて前記情報データを送信することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 9】 請求項 8 に記載のデータ通信システムにおいて、

前記第 1 の情報は、前記通信パケットのヘッダ部に格納され、前記第 2 の情報は、該通信パケットのデータ部に格納されていることを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 10】 請求項 2～9 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記情報データは、第 2 の情報に対応するメモリ空間に格納されていることを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 11】 請求項 1～10 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記第 1 の情報は、一つの送信機器と複数の受信機器とにより構成される論理的な接続関係を示すことを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 12】 請求項 1～11 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記第 2 の情報は、前記 N 個の機器間において通信される複数の異なる情報データのそれぞれを判別する情報であることを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 13】 請求項 1～12 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記 N 個の機器のそれぞれから出力される情報データは、前記データ通信システムを構成する全ての機器に転送されることを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 14】 請求項 1～13 の何れか 1 項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記N個の機器のそれぞれから出力される情報データは、IEEE1394規格に準拠したAsynchronous転送方式を用いて転送されることを特徴とするデータ通信システム。

【請求項15】 請求項2～14の何れか1項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記管理機器は、前記情報データを送信する機器から送信された終了フラグにより、該情報データの通信が終了したことを特徴とするデータ通信システム。

【請求項16】 請求項2～15の何れか1項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記仮想的な通信関係の開放は、前記管理機器或いは前記情報データを受信する機器により行われることを特徴とするデータ通信システム。

【請求項17】 請求項1～16の何れか1項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記情報データを受信する機器は、前記仮想的な通信関係を構成する要求に対して、受信バッファのサイズ、メモリ空間内の所定の領域を示すアドレス情報、データ開始のポインタを示すシーケンシャル番号、準備完了を示す情報のうち、少なくとも一つの情報を含むパケットを送信することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項18】 請求項1～17の何れか1項に記載のデータ通信システムにおいて、

前記情報データを送信する機器は、該情報データを受信する機器からのレスポンスを所定期間計時し、該期間により通信異常を検出することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項19】 請求項18に記載のデータ通信システムにおいて、

前記情報データを送信する機器は、前記通信異常を検出した場合に、前記情報データの再送動作を自動的に開始することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項20】 複数の機器により構成されたデータ通信システムにおいて

前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示

す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 2 1】 複数の機器により構成されたデータ通信システムにおいて

複数の ID 情報を用いて仮想的な通信環境を設定することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 2 2】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、

前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第 1 の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第 2 の情報とを設定する設定手段と、

前記設定手段により設定された前記第 1 及び第 2 の情報を用いて前記情報データの通信を行う通信手段とを具備することを特徴とするデータ通信装置。

【請求項 2 3】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、

前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第 1 の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第 2 の情報とを含む前記情報データを受信する受信手段と、

前記第 1 及び第 2 の情報の情報を用いて前記受信手段により受信された情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別する判別手段とを具備することを特徴とするデータ通信装置。

【請求項 2 4】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、

前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを設定する設定手段と、

前記設定手段により設定された前記第 1 及び第 2 の情報を用いて前記情報データの通信を行う通信手段とを具備することを特徴とするデータ通信装置。

【請求項 25】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、

前記複数の機器に含まれる N 個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該 N 個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを含む情報データを受信する受信手段と、

前記第 1 及び第 2 の情報を用いて前記受信手段により受信された情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別する判別手段とを具備することを特徴とするデータ通信装置。

【請求項 26】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、

前記複数の機器に含まれる N 個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第 1 の情報と、該 N 個の機器間において通信される情報データを判別する第 2 の情報とを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴とするデータ通信方法。

【請求項 27】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、

前記複数の機器に含まれる N 個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該 N 個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを含む通信パケットを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴とするデータ通信方法。

【請求項 28】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、

複数の ID 情報を用いて仮想的な通信環境を設定することを特徴とするデータ通信方法。

【請求項 29】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、

前記複数の機器に含まれる N 個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第 1 の情報と、該 N 個の機器間において通信される情報データを判別する第 2 の情報とを用いて、前記情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判



別することを特徴とするデータ通信方法。

【請求項 30】 複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、

前記複数の機器に含まれる N 個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該 N 個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを用いて、前記情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別することを特徴とするデータ通信方法。

【請求項 31】 請求項 22～25 の何れか 1 項に記載の各手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

【請求項 32】 請求項 26～29 の何れか 1 項に記載のデータ通信方法の手順をコンピュータに実行させるためのプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はデータ通信システム、データ通信装置、データ通信方法及び記憶媒体に関し、特に、制御信号とデータを混在させて通信することが可能なデータ通信バスを用いて複数の電子機器（以下、機器）間を接続して、各機器間でデータ通信を行うデータ通信システム、及びデータ通信システムを構成する装置及び方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

パソコン周辺機器の中で、最も利用頻度が高いのはハードディスクやプリンタであり、これらの周辺装置は小型コンピュータ用の汎用型インターフェイスで代表的なデジタルインターフェイス（以下、デジタル I/F）である SCSI 等をもってパソコン間との接続がなされ、データ通信が行われている。

【0003】

また、デジタルカメラやデジタルビデオカメラといった記録再生装置もパソコン（以下、PC）への入力手段として、周辺装置の 1 つであり、近年、デジタルカ

メラやビデオカメラで撮影した静止画や動画といった映像をPCへ取り込み、ハードディスクに記憶したり、またはPCで編集した後、プリンタでカラープリントするといった分野の技術が進んでおり、ユーザーも増えている。

#### 【0004】

そして、取り込んだ画像データをPCからプリンタやハードディスクへ出力する際などに、前記のSCSI等を経由してデータ通信がされるものであり、そのようなとき画像データのようにデータ量の多い情報を送るためにも、こういったデジタルI/Fには転送データレートの高い、かつ汎用性のあるものが必要とされる。

#### 【0005】

図8に、従来の例としてデジタルカメラ、PC及びプリンタを接続したときのブロック図を示す。

図8において、101はデジタルカメラ、102はパソコン(PC)、103はプリンタである。さらに、104はデジタルカメラの記録部であるメモリ、105は画像データ復号化回路、106は画像処理部、107はD/Aコンバータ、108は表示部であるEVF、109はデジタルカメラのデジタルI/O部、110はPCのデジタルカメラとのデジタルI/O部、111はキーボードやマウスなどの操作部、112は画像データの復号化回路である。

#### 【0006】

113はディスプレイ、114はハードディスク装置、115はRAM等のメモリ、116は演算処理部のMPU、117はPCIバス、118はデジタルI/FのSCSIインターフェース(ボード)、119はPCとSCSIケーブルで繋がったプリンタのSCSIインターフェイス、120はメモリ、121はプリンタヘッド、122はプリンタ制御部のプリンタコントローラ、123はドライバである。

#### 【0007】

デジタルカメラで撮像した画像をPCに取り込み、またPCからプリンタへ出力するときの手順の説明を行う。デジタルカメラ101のメモリ104に記憶されている画像データが読みだされると、読み出された画像データのうち一方は復号化回路105で復号化され、画像処理回路106で表示するための画像処理がなされ、D/Aコンバータ107を経て、EVF108で表示される。また一方では、外部出力するため

にデジタルI/O 部109 から、ケーブルを伝わってPC102 のデジタルI/O 部110 へ至る。

【0008】

PC102 内では、PCI バス117 を相互伝送のバスとして、デジタルI/O 部110 から入力した画像データは、記憶する場合はハードディスク114 で記憶され、表示する場合は復号化回路112 で復号化された後、表示画像としてメモリ115 に記憶され、ディスプレイ113 でアナログ信号に変換されてから表示される。PC102 の編集時等の操作入力は操作部111 から行い、PC102 全体の処理はMPU116で行うようになされている。

【0009】

また、画像をプリント出力する際は、PC102 内のSCSIインターフェイスボード118 から画像データをSCSIケーブルにのせて伝送し、プリンタ103 側のSCSIインターフェイス119 で受信し、メモリ120 でプリント画像として形成され、プリンタコントローラ122 の制御でプリンタヘッド121 とドライバ123 が動作して、メモリ120 から読み出したプリント画像データをプリントする。以上が、従来の画像データをPC取り込み、またはプリントするまでの手順である。

【0010】

このように、従来はホストであるPCにそれぞれの機器が接続され、PCを介してから、記録再生装置で撮像した画像データをプリントしている。また、デジタルVTR、TV、チューナなどのAV機器や、パーソナルコンピュータ（以下、PCと称する）等をIEEE 1394 シリアルバス（以下、1394と称する）を用いて相互に接続し、これらの間においてデジタルビデオ信号、デジタルオーディオ信号などを送受信する通信システムが提案されている。

【0011】

これらのシステムにおいては、リアルタイムにデータ転送することが重要となるため、いわゆる同期通信（以下、Isochronous 通信と称する）によって、データ通信を行なっている。

この場合には、データ転送のリアルタイム性は保証されるが、通信が確実に行なわれるかは保証されない。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記従来例で挙げたデジタルインターフェイスの問題点として、SCSIには転送データレートの低いものや、パラレル通信のためケーブルが太いもの、接続される周辺機器の種類や数、接続方式などにも制限があり、多くの面での不便利さも指摘されている。

【0013】

また、従来のIEEE 1394 通信の場合には、同期通信を行なうため、通信が確実に行なわれるかは保証されない。したがって、確実にデータ転送を行ないたい場合には、従来の1394 Isochronous通信を使用することはできない。

【0014】

また、従来の1394 Isochronous通信では、通信帯域に空きがある場合にも、通信の総数が64に制限される。このため、通信帯域をあまり要求しないような通信を多数行ないたい場合には、従来の1394 Isochronous通信を使用することはできないといった問題点があった。また、従来の1394通信方式では、データ転送の間に、バスリセットやエラーによる、データ転送の中断が生じることが考えられる。

【0015】

この場合、従来の1394通信方式では、どのようなデータ内容が失われたのかを知ることができない。そのため、従来の1394通信方式では、該データ転送中断からの復帰を行なうためには、非常に複雑な通信手順を踏むことを要求されるという問題点があった。

【0016】

本発明は、前記問題点を解決するためになされたもので、従来の通信方式の不便利性を解決し、簡便に高速にデータを転送するとともに、確実にデータ転送を可能にすることを第1の目的とする。

また、本発明は、通信帯域をあまり使用しない場合に、多数の通信を同時に可能にすることを第2の目的とする。

また、本発明は、データ転送中断により失われたデータを容易に検出すること

が可能で、前記データ転送中断からの復帰を、確実に、かつ簡単に可能にすることを第3の目的とする。

また、本発明は、複数のコントロールノードがネットワーク上に存在する場合には、個々のコントロールノードが設定した論理的コネクションを識別する手段がなかった。1つのソースノードから複数のデスティネーションノードに対してデータを送信する手段を提供できるようにすることを第4の目的とする。

また、本発明は、マルチキャスト転送を実現するにあたり、マルチキャストの packets が従来の 1394 規格の装置において、受け取らないようにすることを第5の目的とする。

#### 【0017】

##### 【課題を解決するための手段】

従来抱えている問題を解決するため、本発明は、従来からあるデジタル I/F の問題点を極力解消した、各デジタル機器に統一されて搭載されるような汎用型デジタル I/F (例えば IEEE1394-1995 ハイパフォーマンス・シリアルバス) を用いて、PC やプリンタ、その他周辺装置、またデジタルカメラやデジタル VTR の記録再生装置等をネットワーク構成で接続したときの機器間データ通信を実現し、記録再生装置からビデオデータ等の PC への取り込み、また、映像データをプリンタへ直接転送しプリントなどを実現する。このようなネットワークにおいて、各種のデータを Asynchronous トランザクションによりそれぞれのデータを複数に分割して伝送するプロトコルを提供するものである。

#### 【0018】

ペイロード内に、バスリセット等によっても変化しない、コントロールノードが有する固有のノード情報である ID を付加する。

コントロールノードは、ソースに対して論理的に接続されたデスティネーション数を告知する。

#### 【0019】

ソースノードは、デスティネーションからのバッファサイズごとに該デスティネーションからの受信確認応答 packets を待って、次のセグメント packets を送信する。ソースノードからの送信データ終了を示す packets に対してそれぞれ

のデスティネーションは、受信確認応答パケットを返す。

【0020】

マルチキャスト伝送におけるソースノードからの送信Destination Bus ID バスアドレスをローカルバスである3 FF (h) としない、0 から3 FE 以下のアドレスを設定する。

【0021】

本発明のデータ通信システムは、複数の機器により構成されたデータ通信システムにおいて、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第1の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第2の情報とを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴としている。ここで、第1の情報とは、実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、第2の情報とは、本実施の形態に記載されたコネクションIDに相当する。

また、本発明のデータ通信システムの他の特徴とするところは、前記データ通信システムは、前記第1及び第2の情報を管理する機能を具備する管理機器を含み、該管理機器を用いて前記N個の機器間の通信を制御することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記管理機器は、前記N個の機器のそれぞれに、前記第1及び第2の情報を送信することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記管理機器は、前記第1及び第2の情報とともに、該管理機器に固有のユニークID情報を前記N個の機器のそれぞれに送信することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記N個の機器は、前記ユニークID情報を用いて前記第1及び第2の情報を設定した管理機器を識別することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記管理機器は、IEEE 1394規格に準拠したAsynchronous転送方式を用いて、前記N個の機器のそれぞれとの通信を行うことを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記N個の機器は、前記第1及び第2の情報に関する付加情報をテーブルを用いて管理することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記N個の機器は、前記第1及び第2の情報により構成される通信パケットを用いて前記情報データを送信することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記第1の情報は、前記通信パケットのヘッダ部に格納され、前記第2の情報は、該通信パケットのデータ部に格納されていることを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記情報データは、第2の情報に対応するメモリ空間に格納されていることを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記第1の情報は、一つの送信機器と複数の受信機器とにより構成される論理的な接続関係を示すことを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記第2の情報は、前記N個の機器間において通信される複数の異なる情報データのそれぞれを判別する情報であることを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記N個の機器のそれぞれから出力される情報データは、前記データ通信システムを構成する全ての機器に転送されることを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記N個の機器のそれぞれから出力される情報データは、IEEE1394規格に準拠したAsynchronous転送方式を用いて転送されることを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記管理機器は、前記情報データを送信する機器から送信された終了フラグにより、該情報データの通信が終了したことを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記仮想的な通信関係の開放は、前記管理機器或いは前記情報データを受信する機器によ

り行われることを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記情報データを受信する機器は、前記仮想的な通信関係を構成する要求に対して、受信バッファのサイズ、メモリ空間内の所定の領域を示すアドレス情報、データ開始のポインタを示すシーケンシャル番号、準備完了を示す情報の少なくとも一つの情報を含むパケットを送信することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記情報データを送信する機器は、該情報データを受信する機器からのレスポンスを所定期間計時し、該期間により通信異常を検出することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記情報データを送信する機器は、前記通信異常を検出した場合に、前記情報データの再送動作を自動的に開始することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴としている。ここで、仮想的な通信関係を示す情報とは、本実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、仮想的なメモリ空間を指定する情報とは、本実施の形態に記載されたdestination offsetに相当する。

また、本発明のデータ通信システムのその他の特徴とするところは、複数のID情報を用いて仮想的な通信環境を設定することを特徴としている。ここで、複数のID情報には、本実施の形態に記載されたマルチキャストID、コネクションID、destination offsetの内の何れかが含まれている。

#### 【0022】

本発明のデータ通信装置は、複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第1の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第2の情報とを設定する設定手段と、前記設定手段により設定された前記第1及び第2の情報を用いて前記情報データの通信を



行う通信手段とを具備することを特徴としている。ここで、第1の情報とは、実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、第2の情報とは、本実施の形態に記載されたコネクションIDに相当する。

また、本発明のデータ通信装置の他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第1の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第2の情報とを含む前記情報データを受信する受信手段と、前記第1及び第2の情報の情報を用いて前記受信手段により受信された情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別する判別手段とを具備することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信装置のその他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、

前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを設定する設定手段と、前記設定手段により設定された前記第1及び第2の情報を用いて前記情報データの通信を行う通信手段とを具備することを特徴としている。ここで、仮想的な通信関係を示す情報とは、本実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、仮想的なメモリ空間を指定する情報とは、本実施の形態に記載されたdestination offsetに相当する。

また、本発明のデータ通信装置のその他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに接続可能なデータ通信装置において、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを含む情報データを受信する受信手段と、前記第1及び第2の情報を用いて前記受信手段により受信された情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別する判別手段とを具備することを特徴としている。ここで、仮想的な通信関係を示す情報とは、本実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、仮想的なメモリ空間を指定する情報とは、本実施の形態に記載されたdestination offsetに相当する。

## 【0023】

本発明のデータ通信方法は、複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第1の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第2の情報とを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴としている。ここで、第1の情報とは、実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、第2の情報とは、本実施の形態に記載されたコネクションIDに相当する。

また、本発明のデータ通信方法のその他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを含む通信パケットを用いて前記情報データの通信を行うことを特徴としている。ここで、仮想的な通信関係を示す情報とは、本実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、仮想的なメモリ空間を指定する情報とは、本実施の形態に記載されたdestination offsetに相当する。

また、本発明のデータ通信方法のその他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、複数のID情報を用いて仮想的な通信環境を設定することを特徴としている。

また、本発明のデータ通信方法のその他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、前記複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第1の情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第2の情報とを用いて、前記情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別することを特徴としている。ここで、複数のID情報には、本実施の形態に記載されたマルチキャストID、コネクションID、destination offsetの内の何れかが含まれている。

また、本発明のデータ通信方法のその他の特徴とするところは、複数の機器により構成されたデータ通信システムに適用可能なデータ通信方法において、前記

複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す情報と、該N個の機器間で通信される情報データを格納する仮想的なメモリ空間を指定する情報とを用いて、前記情報データが自己に送信されたデータであるか否かを判別することを特徴としている。ここで、仮想的な通信関係を示す情報とは、本実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。また、仮想的なメモリ空間を指定する情報とは、本実施の形態に記載されたdestination offsetに相当する。

## 【0024】

本発明の記憶媒体の特徴とするところは、前記各手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。ここで、第1の情報とは、実施の形態に記載されたマルチキャストIDに相当する。

本発明の記憶媒体の他の特徴とするところは、前記データ通信方法の手順をコンピュータに実行させるためのプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

## 【0025】

## 【作用】

本発明は前記技術手段を有するので、コントローラノードにより、ネットワーク内に一意に決めた独立したコネクションIDを設定し、ソース、デスティネーションノード間に論理的なコネクションをはり、それぞれの論理的なコネクションに前記コネクションIDをあてる。それ以後は、ソース、デスティネーションノード間のハンドシェイク通信においては、前記コントローラが設定したコネクションIDナンバーをペイロード内のフィールドに含む、いわゆるブロードキャストAsynchronousトランザクションを用いて通信する。

## 【0026】

それぞれのノードは、ペイロード内のコネクションIDを判別して、自身のノード間に設定されたコネクションであるか否かを判別し、設定されたコネクションID以外は、すべて自分自身で排除する。

## 【0027】

ソースノードは、デスティネーションノードに対して、コネクション要求フラ

グを有するブロードキャストパケットを送信し、デスティネーションノードは、そのノードがデータの受信準備が終了しだい、受信できるバッファサイズ情報、および、データパケットの開始順番を示すデータシーケンス番号を含み、Ack ビットを設定して、いわゆるブロードキャストAsynchronousトランザクションを用いて通信する。

【0028】

ソースノードは、ブロードキャストで送信されたパケットを受信して、コネクションIDを判別し、デスティネーションノードからのAck レスポンスであることを確認する。以上により、データ転送が開始される。

【0029】

また、ペイロード内のコントロールノードの固有情報であるワールドワイドユニークIDとコントロールノードの設定したコネクションIDにより、ソース、デスティネーションノードは、ソースデスティネーション間に個別に設定された論理的コネクションを識別する。

【0030】

また、複数接続されたデスティネーションに単一のコネクションIDによりデータを送信する。従来の1394デバイスは、デスティネーションバスIDがローカルであることを示す3FF(h)でないため、デスティネーションフィジカルIDがたとえ、3F(h)であっても簡易にマルチキャストで転送されたパケットを削除できる。

【0031】

【発明の実施の形態】

以下、図面を用いて、本発明の実施の形態について説明する。

図1において、10はcomputerであり、12は演算処理装置(MPU)、14は第一の1394インターフェイス、16はキーボードなど第一の操作部、18は第一のデコーダ、20はCRT ディスプレイなどの表示装置、22はハードディスク、24は第一のメモリであり本発明に係るcomputer10の内部メモリ、26はPCI バスなどのコンピュータ内部バスである。

【0032】

また、28はVCR であり、30は撮像光学系、32はアナログ- デジタル(A/D) 変換器、34はビデオ処理部、36は圧縮伸長回路、38は第一のメモリ、40は第二のメモリ、42は第一のデータセクタ、44は第二の1394インターフェイス、46は第一のメモリ制御回路、48は第二のメモリ制御回路、50はシステムコントローラ、52は第二の操作部、54はファインダ、56はD/A 変換器、58は記録部である。

【0033】

さらに、60はプリンタであり、62は第三の1394インターフェイス、64は第二のデータセクタ、66は第三の操作部、68はプリンタコントローラ、70は第二のデコーダ、72は第三のメモリ、74は画像処理部、76はドライバ、78はプリンタヘッド、である。

【0034】

computer10と、VCR28、及び、プリンタ60とは、第一から第三の1394インターフェイス14,44,62によって1394シリアルバスのノードを構成するとともに、該第一から第三の1394インターフェイス14,44,62を介して相互に接続されており、データの授受や、コマンドによるコントロール等が可能になっている。

【0035】

本実施の形態では、例えば、computer10は、1394シリアルバス上における、画像信号送受信のコントローラとして動作する。

本実施の形態に係るcomputer10においては、例えば、PCI バスなどのコンピュータ内部バス26によって、12は演算処理装置(MPU) と、1394インターフェイス14、キーボード16、デコーダ18、CRT ディスプレイ20、ハードディスク22、内部メモリ24などの、内部の各デバイスとが相互に接続されている。

【0036】

12は演算処理装置(MPU) は、ハードディスク22に記録されているソフトウェアを実行するとともに、様々なデータを内部メモリ24に移動させる。

また、12は演算処理装置(MPU) は、PCI バス26によって接続されている各デバイスの調停動作なども合わせて行なう。

1394インターフェイス14は、1394シリアルバス上に転送される画像信号を受信するとともに、ハードディスク22に記録されている画像信号や、内部メモリ24に記

憶される画像信号を送信する。

【0037】

また、1394インターフェイス14は、1394シリアルバス上に接続された他の機器に対するコマンドデータを送信する。また、1394インターフェイス14は、1394シリアルバス上に転送される信号を他の1394ノードに転送する。

【0038】

操作者は、キーボード16などの操作部を通じて、MPU12 に、ハードディスク22 に記録されているソフトウェアを実行させる。該ソフトウェア等の情報は、CRT ディスプレイなどの表示装置20によって操作者に提示される。

【0039】

デコーダ18は、前記のソフトウェアを通じて、1394シリアルバス上から受信した画像信号をデコードする。デコードされた画像信号も、また、CRT ディスプレイなどの表示装置20によって操作者に提示される。

【0040】

本実施の形態では、例えば、VCR28 は、画像信号の入力装置として動作する。撮像光学系30から入力された映像の輝度信号（Y）と色差信号（C）は各々A/D変換器32にてデジタルデータに変換される。

【0041】

前記デジタルデータは、ビデオ処理部34にて多重化される。その後、圧縮伸長回路36にて該画像情報のデータ量を圧縮する。一般に、YC独立に該圧縮処理回路を備えているが、ここでは説明の簡略化の為にYC時間分割での圧縮処理の例を示す。

【0042】

次に、前記画像データを伝送路誤りに強くする目的でシャフリング処理を施す。この処理の目的は連続的な符号誤りであるところのバーストエラーを修整や補間の行いやすい離散的な誤りであるところのランダムエラーに変換する事である。加えて、画像の画面内の粗密による情報量の発生の偏りを均一化する目的を重視する場合には前記圧縮処理の前に本処理工程を持ってくると、ランレングス等の可変長符号を用いた場合の都合が良い。

【0043】

これを受けて、データ・シャフリングの復元の為のデータ識別 (ID) 情報を付加する。このID付加動作にて付加されたIDは、同時に記録しておいた前記システムのモード情報等と共に再生時の逆圧縮処理 (情報量伸張処理) の際に補助情報として利用する。これらのデータの再生時の誤りを低減する為にエラー訂正 (ECC) 情報を付加する。この様な冗長信号の付加までを、映像と音声等の情報毎に対応する独立の記録エリア毎に処理する。

【0044】

前記のように、ID情報やECC 情報が付加された画像信号は、記録部58により、磁気テープ等の記録媒体に記録されるとともに、後述する第一のメモリ38に一時的に記憶される。

【0045】

一方、ビデオ処理部34にて多重化された画像データは、D/A 変換器56によって、ディジタル- アナログ変換され、電子ビューファインダ54で操作者により観察される。

【0046】

また、操作者は第二の操作部52を介して、様々な操作情報をシステムコントローラ50に送信し、システムコントローラ50は、該操作情報によって、VCR 全体を制御するようになっている。

【0047】

また、ビデオ処理部34にて多重化された画像データは、第二のメモリ40に出力され、一時的に記憶される。前述した第一のメモリ38と、二のメモリ40とは、それぞれ、第一のメモリ制御回路46と、第二のメモリ制御回路48とを介し、システムコントローラ50により動作制御されている。

【0048】

第一のデータセクタ42は、前述した第一のメモリ38と、二のメモリ40からのデータを選択して、第二の1394インターフェイス44に受け渡す、あるいは、第二の1394インターフェイス44からのデータを選択して、第一のメモリ38と、二のメモリ40とのどちらかに受け渡す。

【0049】

前記動作により、VCR28 における第二の1394インターフェイス44からは、圧縮された画像データと非圧縮の画像データとが、操作者により選択されて出力できるようになっている。

【0050】

第二の1394インターフェイス44は、1394シリアルバスを通じて、VCR28 を制御するためのコマンドデータを受信する。受信されたコマンドデータは、第一のデータセクタ42を通じて、システムコントローラ50に入力される。

【0051】

システムコントローラ50は、前記のコマンドデータに対するレスポンスデータを作成して、第一のデータセクタ42、及び、第二の1394インターフェイス44を通じ、1394シリアルバスに該データを送出する。

【0052】

本実施の形態では、例えば、プリンタ60は、画像の印刷出力装置として動作する。第三の1394インターフェイス62は、1394シリアルバス上に転送される画像信号と、1394シリアルバスを通じて該プリンタ60を制御するためのコマンドデータを受信する。また、第三の1394インターフェイス62は、該コマンドに対するレスポンスデータを送信する。

【0053】

受信された画像データは、第二のデータセクタ64を通じて、第二のデコーダ70に入力される。第二のデコーダ70は、該画像データをデコードして、画像処理部74に出力する。画像処理部74は、デコードされた画像データを第三のメモリ72に一時的に記憶する。

【0054】

一方、受信されたコマンドデータは、第二のデータセクタ64を通じて、プリンタコントローラ68に入力される。プリンタコントローラ68は、該コマンドデータによりドライバ76による紙送り制御や、プリンタヘッド78の位置制御など、様々な印刷に関する制御を行なう。

【0055】



また、プリンタコントローラ68は、第三のメモリ72に一時的に記憶された画像データを、印刷データとして、プリンタヘッド78に送信し、印刷動作を行わせる。前述したように、本実施の形態に係る、第一から第三の1394インターフェイス14,44,62は、それぞれ、1394シリアルバスのノードを構成する。

【0056】

第一1394インターフェイス14は、コントロールノード、または、コントローラとして動作し、第二1394インターフェイス44は、画像データのソースノードとして動作し、第三1394インターフェイス44は、デスティネーションノードとして動作する。

【0057】

以下に、図2を用いて、本実施の形態に係る各ノードの動作を示す。図2において、200 はコントローラ、202 はソースノード、204 はデスティネーションノード、206 はソースノード内部のサブユニット、208 は画像データ等のobject、210 はデスティネーションノード内部の第一のメモリ空間、212 は第一の接続、214 はデスティネーションの第n のメモリ空間、216 は第n の接続である。

【0058】

コントローラ200 は、データ転送を行うソースノード202 とデスティネーションノード204 との接続を確立するための接続IDを管理するノードである。

【0059】

コントローラ200 は、ソースノード202 、及びデスティネーションノード204 と独立したノードであってもよいし、ソースノード、または、デスティネーションノードとコントローラとが同じであってもかまわない。後者の場合、コントローラと同じノードであるソースノード、または、デスティネーションノードと、コントローラとの間のトランザクションは、不要である。

【0060】

本実施の形態では、コントローラ200 がソースノード202 、及びデスティネーションノード204 とは別のノードに存在する場合の例を示す。本実施の形態の通

信装置においては、複数のコネクションを確立することが可能である。

【0061】

ソースノード202 は、内部のサブユニット206 から画像データ等のobject208 を、例えば、第一のコネクション212 を通じて、デスティネーションノード内部の第一のメモリ空間210 に書き込む。また、前述のコネクションによるデータの授受は、例えば、Asynchronousパケットを用いて行なわれる。

【0062】

次に、図3(a)を用いて、前述した、コントローラ200、ソースノード202、デスティネーションノード204の、各ノードの動作について説明する。コントローラは、ユーザーが選択したソースノードとデスティネーションノードに対して、接続を行うためのデータパケットを送信する。

【0063】

このパケットはAsynchronousパケットで、ペイロードにはこのコネクションを識別するためのコネクションIDが書かれている。このパケットに続いて、コントローラはソースノードに送信コマンドパケットを送信する。送信コマンドパケットを受け取ると、ソースノードとデスティネーションノードは割り当てられたコネクションIDを使用してブロードキャストトランザクションを行い、データ転送を開始する。

【0064】

データ転送が終了するとソースはsegment endを示すブロードキャストパケットを送出し、このパケットを受け取ったコントローラはコネクションIDを解放して、データ転送が終了する。

【0065】

ここで、コネクションIDとは、ソースノードとデスティネーションノードとの論理的なコネクションを示すとともに、ソースノードの具備するサブユニットから送信される複数のオブジェクトを判別する意味を有する。したがって、複数の異なったオブジェクトが同一のソースノードから同一のデスティネーションノードに送信される場合、デスティネーションノードはAsynchronousパケット内に含まれるコネクションIDを検出することにより、各オブジェクトを判別する

ことができる。

【0066】

また、同一のオブジェクトが同一のソースノードから異なる複数のデスティネーションノードに送信される場合も、各デスティネーションノードは、このコネクションIDにより受信すべきAsynchronousパケットを判別することができる。

【0067】

コントローラからコネクションID通知のパケットと送信コマンドパケットを受け取ったソースノードは、デスティネーションノードに対する問い合わせのAsynchronousブロードキャストパケットを送信する。

【0068】

このパケットにはコントローラに指定されたコネクションIDが書き込まれている。デスティネーションノードはこのパケットを受け取ってレスポンスのブロードキャストパケットを送出する。このパケットにも同一のコネクションIDが書き込まれており、ソースノードはこのIDを照合してこのソースノード宛のパケットであるかをどうかを識別する。

【0069】

レスポンスパケットには、デスティネーションノードのバッファサイズとオフセットアドレスが書き込まれており、これ以後のデータ転送はそのアドレスに対するライトランザクションによって行われる。

【0070】

ソースノードはデスティネーションノードから受け取ったオフセットアドレスに対して、Asynchronousブロードキャストパケットを使用して書き込みを行う。このパケットには前記コネクションIDとデータのシーケンス番号が書き込まれている。

【0071】

ブロードキャストパケットを送信した後、ソースノードはデスティネーションノードからのレスポンスを待機する。デスティネーションノードからはコネクションIDとシーケンス番号が書かれたレスポンスパケットがAsynchronousブロードキャストパケットで送信され、このパケットを受け取るとソースノードはシー

クエンス番号をインクリメントし、次のデータを同様に送信する。

【0072】

この手順を繰り返して、ソースノードはデータ転送を行う。デスティネーションノードからのレスポンスを待機する最大の時間はあらかじめ決められており、その時間を過ぎてもレスポンスが帰ってこない場合は、同一シークエンス番号を用いて、同一データを再送する。また、デスティネーションノードから再送要求のレスポンスパケットが送信された場合は、指定されたシークエンス番号のデータをブロードキャストで再送する。全てのデータの転送が終了したら、ソースノードはsegment endを示すブロードキャストパケットを送信して、データ転送を終了する。

【0073】

コントローラからコネクションID通知のパケットを受け取ったデスティネーションノードは、ソースノードからの問い合わせのAsynchronousブロードキャストパケットを待機する。ブロードキャストパケットを受け取ったデスティネーションノードは、そのパケットに書かれているコネクションIDとコントローラから通知されたコネクションIDを照合して、このパケットがソースノードからのパケットであるかどうかを判別する。

【0074】

ソースノードからの問い合わせパケットを受信すると、デスティネーションノードはコネクションID、データ受信用のバッファサイズとオフセットアドレスを書き込んだレスポンスパケットをブロードキャストで送信する。ソースノードからのデータは、このアドレスに対して書き込まれる。

【0075】

ソースノードからデータが書き込まれると、デスティネーションノードはペイロード中のコネクションIDの照合を行う。このIDがコントローラから通知されたIDと一致する場合はデータを受け取って、コネクションIDと受信データ中のシークエンス番号を書き込んだレスポンスパケットをブロードキャストで送信する。受信データのシークエンス番号に不整合が検出された場合、再送要求を示すレスポンスを送出し、ソースノードに再度データを要求することができる。

全てのデータ転送が終了すると、ソースノードからsegment end を示すブロードキャストパケットが送信され、このパケットを受信するとデータ転送プロセスを終了する。

## 【0076】

確実にデータを転送するためには、バスリセットの発生や何らかのエラーの発生により、データ転送中が中断した場合にも、速やかに該データ転送が再開されることが望ましい。本実施の形態では、再送要求の手順を設けることで該問題点を解決している。

## 【0077】

次に、該再送要求の手順を図3(b)を用いて説明する。

データ転送中にバスリセットが発生した場合、各ノードは規格で定められた手順で例えば、シーケンス番号が*i*であった時に、データ転送が中断した場合、まず、各ノードは規格で定められた手順でバスの再構築を行う。

## 【0078】

バスの再構築が完了した後、デスティネーションノードはコネクションIDとシーケンス番号*i*を書き込んだ再送要求パケット(resend request)を、ブロードキャストパケットで送信する。データ転送の再開が可能な場合には、ソースノードは、ack レスポンスを返す。その後、ソースノードは受信したパケットのコネクションIDを照合し、要求されたシーケンス番号の以降、すなわち、シーケンス番号(*i*+1) 出始まるデータ列のデータを順次ブロードキャストパケットで送信する。

## 【0079】

前述の手順により、ソースノード、デスティネーションノード、コントローラノードはそれぞれノードIDを考慮することなく、データ転送が中断しても、その後のデータ転送を容易に、かつ、確実に再開することができる。また、前述のように、本実施の形態では、データ転送が中断した場合にも、コントローラの制御手順が簡略化できる効果がある。

## 【0080】

次に、図4を用いて、前述のAsynchronousパケットについて説明する。

本実施の形態に係るAsynchronousパケットは、例えば、4 byte、(32 bits、以下クアドレットと称する)を単位とするデータパケットである。Asynchronousパケットにおいて、最初の16 bitsはdestination IDフィールドであり、該フィールドは受信先のノードIDを示す。

【0081】

最初の16bitsは、1394-1995 規格においては、上位10bitsは、destination Bus IDを示し、下位の6bitsは、destination Physical IDいわゆるノードIDを示す。上位10bitsは、3FFhである場合は、ローカルバス宛てへの送信を示し、0hから3Fe hまでは、他のバス宛てへの送信を示す。

【0082】

下位6bitsは、3Fhである場合は、ブロードキャストパケットであることを示し、0 h から3Ehまでは、特定のノードIDへの送信を示す。本実施の形態のように、ローカルバスへのブロードキャストを行なう場合には、このフィールドの値はFFFF 16 である。

【0083】

次の6 bitsのフィールドは、トランザクション・ラベル(tl)フィールドであり、各トランザクション固有のタグである。

次の2 bitsのフィールドは、リトライ(rt)コードであり、パケットがリトライを試みるかどうかを指定する。

【0084】

次の4 bitsのフィールドは、トランザクションコード(tcode)である。tcodeは、パケットのフォーマットや、実行しなければならないトランザクションのタイプを指定する。

【0085】

本実施の形態においては、例えば、この値が0001 2 である、データブロックの書き込みリクエストのトランザクションを用いる。

次の4 bitsのフィールドは、プライオリティ(pri)フィールドであり、優先順位を指定する。本実施の形態においては、Asynchronousパケットを用いているので、このフィールドの値は0000 2 である。

【0086】

次の16 bits はsource IDフィールドであり、送信側のノードIDを示す。

次の48 bits はdestination offsetフィールドであり、パケットの受信先ノードアドレスの、下位48 bits がこのフィールドによって指定される。

【0087】

次の16 bits はdata lengthフィールドであり、後述するデータフィールドの長さを、バイト単位で示している。

次の16 bits はextended tcode フィールドであり、本実施の形態に用いられるデータブロックの書き込みリクエストトランザクションにおいては、この値は\$0000 16 \$ である。

【0088】

次の32 bits はheader CRC フィールドであり、前述したdestination IDフィールドからextended tcode フィールドまでを、パケットヘッダと称し、該ヘッダパケットのエラー検出に用いられる。

次のフィールドは可変長のデータフィールドであり、該データフィールドをパケットのペイロードと称する。本実施の形態においては、該データフィールドがクアッドレットの倍数でない場合、クアッドレットに満たないビットには0 が詰められる。

【0089】

次の32 bits のフィールドはdata CRC フィールドであり、前記のheader CRC フィールドと同様に、該データフィールドのエラー検出に用いられる。図5は、前述したフィールドにおいて、本実施の形態にていられるAsynchronousパケットヘッダにおいて、固定のデータを書き加えた図である。また、図6は、本実施の形態にて用いられるAsynchronousパケットのデータフィールドの構造を示す図である。

【0090】

図6において、図4と同じ機能を持つデータについては説明しない。最初の6クアッドレットはヘッダ・インフォメーションであり、前述したコネクションを識別するためのコネクションIDなどが書かれる。

【0091】

6クアドレット目以降は、可変長のデータブロックである。

本実施の形態において、該データブロックがクアドレットの倍数でない場合、クアドレットに満たないビットには0が詰められる。

【0092】

図7は、前記ヘッダ・インフォメーションの構造を示した図である。

最初の2クアドレットは、コントロールノードのワールドワイドユニークIDであり、該データーにより、ソース、デスティネーションは、コネクションを設定したコントロールノードを識別する。このワールドワイドユニークIDは、1394-1995規格に準拠する。

【0093】

ここでは、個々のコントロールノードを識別するために1394-1995に準拠したワールドワイドユニークIDを用いたが、バスリセットなどが発生しても、変化しない個々のノードを識別できる固有の情報であればなんでもよい。

次の16 bits は、前述したコネクションID(connection ID) フィールドであり、該データによってコネクションを識別する。

【0094】

複数のコントローラーが同一のコネクションIDを設定した場合も、個々のノードは、前記コントロールノードのユニークなIDと前記コネクションIDにより、絶対的な論理的コネクションを識別する。

【0095】

また、個々のコントローラーは、他のコントローラの設定したコネクションID番号の重複を許し、コントローラは、他のコントローラの設定したIDを使用してもよい。

【0096】

次の8 bitsは、プロトコルタイプ(protocol type) フィールドであり、該ヘッダ・インフォメーションを用いたデータ授受の手順を示す。図では、Reservedとして示されている。

【0097】



本実施の形態の授受手順には、例えば、01 16 の値が用いられる。次の8 bitsは、コントロールフラグ(control flags)フィールドであり、制御データが書かれる。コントロールフラグフィールドの最上位ビットは、例えば、再送要求(resend request)フラグであり、このビットの値が1 の時、データの再送要求が生じていることを示す。

## 【0098】

次の16 bits は、シーケンス番号(sequence number) フィールドである。前述したように、該シーケンス番号フィールドは、特定のコネクションIDにて送受信されるデータパケットに対し、連続的な値が使用される。デスティネーションノードは、該シーケンス番号フィールドによって、有意なデータの連続性を監視し、不一致が生じた場合には、ソースノードに対して再送要求を行なう。

## 【0099】

次の16 bits は、確認応答番号(reconfirmation number) フィールドである。このフィールドは、前述の再送要求フラグの値が1 の時のみ、意味を持つフィールドである。

## 【0100】

前述の再送要求フラグの値が1 の時、このフィールドは、再送要求が生じている開始パケットのシーケンス番号を示す。次の16ビットは、デスティネーションノードの有するバッファサイズを示す。次の48ビットは、デスティネーションノードのIEEE1212規格に準拠した仮想的なアドレス空間(CRS 空間)のオフセットアドレスを示す。

## 【0101】

## (用語の説明)

なお、前述した実施の形態において、以下のセグメントとは、ソースノードのデーターをペイロードのデーター値から、ペイロード内に設けたヘッダーサイズ値を減算した値を単位として分割したものをいい、セグメントのデーターをセグメントデーターという。そのセグメントデーターサイズをセグメントデーターサイズという。

## 【0102】

図9は、2つのコントローラがネットワーク上にそれぞれ同一のコネクションIDを設定した構成を示す。図9中のコントローラノード1は、バスリセットなどが発生しても変化しないノードユニークな識別IDを有することを示す。ここでは、IEEE1394-1995 規格のワールドワイドユニークID=1とする。

#### 【0103】

同じく、図中のコントローラノード2は、前記コントローラノード1同様にバスリセットなどが発生しても変化しないノードユニークな識別IDを有することを示す。ここでは、IEEE1394-1995 規格のワールドワイドユニークID=4とする。それぞれのコントローラは、ソースデスティネーション間に論理的なコネクションを設定しており、ここでは、それぞれの論理的コネクションIDが0となっている。

#### 【0104】

このように、同一のコネクションIDをそれぞれのコントローラが設定した場合も、コントロールノード間で、コネクションIDが重複しないようにするネゴシエーションは必要ない。

#### 【0105】

コントローラは、コネクション設定にあたり、あらかじめソースデスティネーション間にそれぞれコネクションIDとコントローラのノードユニークな識別IDを告知しておく。ソース、デスティネーションそれぞれは、コネクションを設定したコントローラを前記手順によりここに識別する。

#### 【0106】

図10は、図3(a)にて説明した、フローを補足する本実施の形態の全体のコントローラとソース、デスティネーション間の大まかなフローを示す。

(1) コントローラは、まず、各デスティネーションに各デスティネーションが許容できる最大のAsynchronous Write トランザクションのパイロードサイズを表すIEEE1394-1995 規格に準拠したmax \_\_rec サイズを問い合わせると同時にコントローラが設定したユニークなコネクションIDを告知する。各デスティネーションは、前記コントローラからのコマンドに対して、それぞれmax rec サイズを通知し、かつコネクションIDが設定されたことをレスポンスとして返

す。

#### 【0107】

(2) 次に、コントローラーは、ソースに対して前記コントローラが設定したユニークなコネクションIDと、コントローラがソース、デスティネーション間で論理的に接続するデスティネーションの総数Nと、ソースが送信するブロードキャストAsynchronous Write トランザクションのペイロードのサイズを告知する。このコントローラーからソースノードへ告知されるペイロードのサイズは、各デスティネーションからの前記max rec サイズの中でもっとも小さいmax rec サイズをソースノードからのペイロードサイズとする。

#### 【0108】

ソースノードは、コントローラーからのペイロードサイズから、各Asynchronous Write トランザクションのペイロード内に設けられている固定データサイズのヘッダーのサイズだけを減算したデータサイズを1セグメントのデータサイズとし、このデータサイズにて選択されたオブジェクトを分割する。

#### 【0109】

ここでは、コントローラーがペイロードのデータサイズをソースに対して告知し、ソースノードがセグメントのデータサイズを演算したが、コントローラーがこれらセグメントのサイズをあらかじめ演算した結果をソースノードに告知するようにしてもよい。ソースは、前記コントローラからのコマンドに対して、それぞれが設定されたことをレスポンスとして返す。

#### 【0110】

(3) コントローラーは、ソースに対して送信を希望するソースの有するオブジェクトデータの中から1つのオブジェクトを選択する。ソースは、コントローラーに対して該オブジェクトが選択されたことをレスポンスとして返す。該選択されたオブジェクトは、静止画でも動画でもよい。また、テキストデータや、バイナリーデータでもよい。

#### 【0111】

(4) コントローラは、前記ソースからのレスポンスに対してソースがオブジェクトを送信できることを知ると、コントローラーは、ソースに対して選択した

オブジェクトをデスティネーションに対して送信開始を指示するコマンドを送信する。

【0112】

(5) ソースは、コントローラからの前記送信開始コマンドを受信すると、選択したオブジェクトを送信開始する。

【0113】

(6) ソースからのオブジェクトの送信が終了するとコントローラは、ソースに対して選択したオブジェクトを開放する。

【0114】

(7) この時点で、コントローラは、更に他のオブジェクトを送信したいのであれば、前記の手順(3)から手順(6)を繰り返す。

【0115】

(8) すべてのオブジェクトを送信し終わると、コントローラは先に設定したユニークなコネクションIDをリリースしてもよい。

【0116】

図11は、1つのコントローラがネットワーク上に同一のコネクションIDを1つのソースとN個のデスティネーション間に設定した構成を示す。ここでは、ユニークなコネクションIDをFFFF(h)としているが、他の番号でもよい。コントローラは、図10に示した全体のフローの手順(1)をそれぞれのデスティネーションに対して行い、都合N回繰り返す。

【0117】

図12は、前記図11に示したようなネットワークの構成において、それぞれのデスティネーションが同一の受信バッファサイズを有し、オブジェクトデータサイズが該受信バッファに等しい場合を示す。ここでは、簡単のためデスティネーションの数を $N=3$ としている。ソースは、コントローラから同一のコネクションIDで接続されているデスティネーション数=3であることをすでに、コントローラから告知されている。

【0118】

(イ) コントローラからの送信開始コマンドがソースに対して送信されると、

ソースは、図 3 (a) にて説明した手順に従い接続要求を送信する。

(ロ) 3 個のデスティネーションは、それぞれ受信準備が完了した時点で、それぞれ自身の有する受信バッファサイズを付加した Ack レスポンスを返す。

(ハ) ソースは、3 個の Ack が帰ってきたことを確認した後、Ack レスポンス内の受信バッファサイズから、オブジェクトを指定されたペイロードサイズに分割して前記該デスティネーションのバッファサイズになるまで送信する。

#### 【0119】

(ニ) すべてのデーターが送信し終わる最後のセグメントにセグメントの終わりを示すセグメントエンドフラグを立てて送信する。

(ホ) 各デスティネーションは、セグメントエンドのパケットを受信すると、それぞれすべてのデーターを受信完了したことを示すセグメントエンドレシーブレスポンスを返す。

(ヘ) コントローラ、ソースは、前記セグメントエンドレシーブレスポンスがすべてのデスティネーションから帰ったことを認識しデーター転送が終了した個を認識する。

#### 【0120】

図 13 は、前記図 12 で説明したオブジェクトデーターの転送のモデルを示す。この図では、オブジェクトデーターは、データーサイズ 128Kbyte の静止画であり、セグメントサイズは、256byte で 500 分割されてデスティネーションに転送されることを示す例である。

#### 【0121】

図 14 は、図 11 において、3 個のそれぞれのデスティネーションが異なる受信バッファサイズを有するネットワークにおけるデーター転送のフローを示す。ここでは、簡単のためデスティネーションの数を  $N=3$  としている。ソースは、コントローラから同一のコネクション ID で接続されているデスティネーション数 = 3 であることをすでに、コントローラから告知されている。

#### 【0122】

(ト) コントローラからの送信開始コマンドがソースに対して送信されると、ソースは、図 3 (a) にて説明した手順に従い接続要求を送信する。

(チ) 3 個のデスティネーションは、それぞれ受信準備が完了した時点で、それぞれ自身の有する受信バッファサイズを付加したAck レスポンスを返す。

【0123】

(リ) ソースは、3 個のAck が帰ってきたことを確認したのち、それぞれのAck レスポンス内の受信バッファサイズを示すフィールドから、オブジェクトを指定されたペイロードサイズに分割して前記該デスティネーションの中で最小のバッファサイズになるまで送信し、最小バッファサイズを有するデスティネーションからのレシーブレスポンスが送信されるのを待つ。

(ヌ) 最小受信バッファを有するデスティネーションからのレシーブレスポンスを受信したら、ソースは、引き続き次に大きい受信バッファを有するデスティネーションノードのバッファサイズまで送信し、該デスティネーションからのレシーブレスポンスが送信されるのを待機する。

【0124】

(ル) 該デスティネーションからのレシーブレスポンスを受信したら、ソースは、引き続き次に大きい受信バッファを有するデスティネーションノードのバッファサイズまで送信し、該デスティネーションからのレシーブレスポンスが送信されるのを待機する。

(ロ) ソースは、すべてのデータを送信し終わるとセグメントエンドフラグをつけた最終セグメントを送信し、それぞれのデスティネーションからのセグメントエンドレシーブレスポンスを受信するまで待機する。

【0125】

(ワ) すべての前記セグメントエンドレシーブレスポンスを受信したら、コントローラーとソースは、データ送信が終了したことを認識する。図15は、前記図14に示した異なる受信バッファの場合を示したものであり、ここでは、簡単のためデスティネーションの数 $N=2$ としている。

【0126】

ソースのオブジェクトは、ここでは、データサイズは128Kbyteの静止画となっているが、データサイズは、可変可能であり、規定するものではない。また、オブジェクトも静止画だけでなく、動画、テキスト、バイナリーデータな

どなにでもよい。

【0127】

ソースは、セグメントサイズ256Byte に前記オブジェクトを500 に分割し、デスティネーション#1のバッファサイズまで送信し、該デスティネーションは、レシーブレスポンスを返し、ソースが引き続き#2のデスティネーションの受信バッファになるまで送信をつづける。ここでは、#2のデスティネーションのバッファサイズが#1のバッファサイズの2倍となっているが、デスティネーション間のバッファサイズについて相互に何ら規定するものではない。

【0128】

#1のデスティネーションは、都合3個のセンドレシーブレスポンスを返し、#2のデスティネーションは、1個のセンドレシーブレスポンスを返すことになる。

【0129】

(第2の実施の形態)

この実施の形態は、マルチキャストにおけるブロードキャストに関する。

図5にて示される第一の実施の形態では、Asynchronous Write パケットにおいて、最初の16 bits はdestination IDフィールドであり、該フィールドは受信先のノードIDを示す。第一実施の形態のように、ローカルバスへのブロードキャストを行なう場合には、このフィールドの値はFFFF 16 である。

【0130】

図16に前記destination IDフィールドを示す。先に説明したとおり、この最初のフィールドの最初の16bit は、IEEE1394-1995 規格においては、上位10bit は、destination Bus IDを示し、下位の6bitは、destination Physical IDいわゆるノードIDを示す。

【0131】

上位10bit は、3FFhである場合は、ローカルバス宛てへの送信を示し、0hから3Fehまでは、他のバス宛てへの送信を示す。下位6bitは、3Fh である場合は、ブロードキャストパケットであることを示し、0hから3Eh までは、特定のノードIDへの送信を示す。

## 【0132】

ここで、他のバス宛てへの送信を示すために用いていた 0h から 3FEh のなかの、特定の 1 つの値を用いて定義された上位 10bit の destination Bus ID と下位 destination Physical ID の合計 16bit をマルチキャスト ID と定義する。本実施の形態 2 では、下位 6bit がブロードキャストを示す 3Fh を用いている。下位 6bit が 3Fh の場合は、ブロードキャスト ID と定義する。

## 【0133】

第 2 の実施の形態では、先に説明した最初の 16bit のフィールドうち、上記 10bit の destination Bus ID を、従来は、他のバス宛てへの送信を示すために用いていた 0h から 3FEh の中の、特定の 1 つの値をマルチキャストデータ転送専用とし、下位の 6bit は、destination Physical ID いわゆるノード ID は、ブロードキャストパケットであることを示す 3Fh を用いる。この例を図 18 に示す。

## 【0134】

## (第 3 の実施の形態)

ここで、前記第 2 の実施の形態において、他のバス宛てへの送信を示すために用いていた 0h から 3FEh のなかの、特定の 1 つの値を用いて定義された上位 10bit の destination Bus ID と下位 destination Physical ID の組み合わせた合計 16bit のフィールドで示されるものをマルチキャスト ID と定義するのは、第 2 の実施の形態と同じである。

## 【0135】

第 3 の実施の形態は、先に説明した最初の 16bit のフィールドうち、第 2 の実施の形態で示した下位 6bit の destination Physical ID いわゆるノード ID は、特定のノード宛ての ID を示す値を用いる。これは、1394 においては、バスリセット後に決定されるノード ID を示すものである。0h から 3Eh までの値を取り、都合 63 個のノード ID が指定できる。

## 【0136】

ここで、この上位 10bit を前記第 2 の実施の形態にて示したように、マルチキャストデータ転送専用の destination Bus ID を指定しているため、下位 6bit の示す ID は、マルチキャストデータ転送用の特定のノード ID を示すこととす



る。これを図 18 に示す。

#### 【0137】

第 1 の実施の形態と同様に、図 10 に示すように、コントローラーは、コネクション設定にあたり、あらかじめソースとデスティネーションにそれぞれ本実施の形態にて説明した 16 bit で示されたマルチキャスト ID とを通知する。また、上位 10 bit は、マルチキャストを指定するため値は固定であるから、下位 6 bit のみを通知することも可能である。

#### 【0138】

また、同時に、コントローラーは、ソース、デスティネーションそれぞれに、デスティネーションの任意の CSR 空間の 48 bits の destination offset フィールドを通知する。コントローラーは、マルチキャスト ID 1 個につき、複数の任意の CSR 空間の 48 bits の destination offset フィールドを指定できる。

#### 【0139】

これらデスティネーションの CSR 空間の 48 bits の destination offset フィールドは、コントローラーがテーブルとして有していてもよい。コントローラーは、これら複数のデスティネーションの CSR 空間の 48 bits の destination offset フィールド毎にコネクションをソースとデスティネーション間で設定する。

#### 【0140】

以上により、パケットの受信先ノードアドレスの、下位 48 bits がこのフィールドによって指定される。このように、設定することにより各デスティネーションは、自分がコントローラーから設定された 6 bit の ID と CSR 空間の 48 bits の destination offset フィールドを認識しデータを取り込む。

#### 【0141】

これら、マルチキャスト ID とデスティネーションのオフセットアドレスは、コントローラーがそれぞれコネクション ID としてマルチキャスト ID とオフセットアドレスの組み合わせを管理する。これを、図 19 にテーブルフォーマットの例を示す。また、図 20 にコントローラーがソース、デスティネーション間に独立したコネクションを 5 個設定している場合のコントローラーが有するコネクションテーブルを示す。

【0142】

ここでは、コントローラーが都合3つのマルチキャストIDを確保しており、マルチキャストID=3FE00(h)には、それぞれ異なるデスティネーションOffsetアドレスを設定していることがわかる。

【0143】

マルチキャストID=3FE01(h)には、一つのデスティネーションOffsetアドレスが設定されている。マルチキャストID=3FE04(h)も、同様に一つのデスティネーションOffsetアドレスが設定されている。

【0144】

このように、一つのマルチキャストIDについて複数のデスティネーションOffsetアドレスが設定されるしくみを提供している。このため、マルチキャストIDが63しかなくても、複数のコネクションを設定できる。

【0145】

デスティネーションからのソースに返信するレスポンスパケットは、前記コントローラーが設定した前記16bitのマルチキャストIDとデスティネーションOffsetアドレスを設定して、図4に示すAsynchのWriteのdestination IDに書き込み、Asynchronous Write トランザクションで送信する。

【0146】

コントローラーは、あらかじめソースノードのCSR空間の48 bitsのdestination offsetフィールドをコネクション毎に設定しており、コネクション設定時にデスティネーションにソースノードの上記CSR空間の48 bitsのdestination offsetを通知していることは、すでに説明している。

【0147】

コントローラーは、あわせて、コントローラーのWWUIDをそれぞれのソース、デスティネーションに通知することは、第1の実施の形態及び第2の実施の形態と同じである。また、それぞれのコネクションID毎に同コネクションIDで設定されているデスティネーションの総数がワード長6bitにて、Total number of destination fieldにコネクション設定が終了されているそれぞれの総数が示されている。

## 【0148】

図21に示すところのWWUIDを示すフィールドにコントローラーが管理するコネクションIDを書き込み、かつ、マルチキャストIDをもちいることにより、バスリセットが発生した場合も実施の形態1に示すようにソース、デスティネーションは、図3(b)に示すように自動的にコネクションを復帰できる。

## 【0149】

## (第4の実施の形態)

本実施の形態では、マルチキャストIDテーブルを有するノードがIsochronous resource マネージャーである場合である。コネクションを設定するコントローラーは、前記Isochronous resource マネージャーに対して、特定のオフセットアドレスに保持されているマルチキャストIDをいったんAsynchronous Read トランザクションにて読み込み、希望するマルチキャストIDをコンペア・スワップロックトランザクションにて書きこむことにより、希望するマルチキャストIDを得る。

## 【0150】

これらの手順は、IEEE1394-1995 規格におけるIsochrnous Ch の獲得手順と同じである。マルチキャストIDを有するノードがROOTノードである場合も、同様に、コントローラーがマルチキャストIDを獲得する手順は同じである。

## 【0151】

このような、マルチキャストIDを管理するノードをバス上に1個に限定し、コネクションを希望するコントローラーが前記マルチキャストIDを管理するノードに前記IDを確保するようにしているため、マルチキャストIDが重複することがなくなる。

## 【0152】

それぞれのコネクション毎に、マルチキャストIDと、ソース、デスティネーションのそれぞれのCSR 空間の48 bits のdestination offsetを指定しているため、図7に示すようなパケット内のペイロードに設けるヘッダーなかのコネクションIDおよび、WWUIDを付加してソースおよび、デスティネーションは、付加しなくてもよい。本実施の形態4の場合のヘッダーを図22に示す。

## 【0153】

図23に示すヘッダーの例は、ここでは、図10にて述べたゼネラルフローにて、デスティネーションのバッファサイズをコントローラーがデスティネーションに問い合わせ、ソースに通知するようにした場合を示している。この場合は、各ペイロード内のヘッダーにデスティネーションのBufferサイズを示すフィールドを設ける必要がない。

## 【0154】

図24に示す例は、コントローラーとソースデスティネーションの接続構成を示す。コントローラーは、ソース、デスティネーション間にコネクションを設定しており、コネクションIDによって管理される。ソース、デスティネーションは、あらかじめ通知されたコネクションIDによって、コネクションを判別することは、第1の実施の形態と同じである。

## 【0155】

それぞれのデスティネーションは、図に示すようにそれぞれが設定されたコネクションIDとマルチキャストIDとオフセットアドレスをテーブルとして有している。図24には示していないが、ソースも同様なテーブルを有することはいうまでもない。

## 【0156】

図24は、コントローラーとソースデスティネーションの接続構成を示す。ソース、デスティネーションは、あらかじめ通知されたコネクションIDによって、コネクションを判別することは、第1の実施の形態と同じである。

## 【0157】

コントローラーは、ソース1個と、N個のデスティネーション間にコネクションを設定していることを示す。コントローラーは、現在コントローラーが設定しているすべてのコネクションをテーブルとして有している。

## 【0158】

コントローラーは、コネクションID=0(h)でデスティネーションノード0、1、2の合計3個のノードに対して、ソースノードとコネクションを設定している。同一コネクションIDで接続されているデスティネーションの総数=

3 (h) をテーブルの Total number of destination field に記録しておく。また、デスティネーションノード #n に別のコネクション ID=4 (h) でもコネクションを設定している。同様に、接続されているデスティネーションの総数=1 (h) をテーブルの Total number of destination field に記録しておく。

【0159】

図 24 に示すデスティネーションノード 0、1、2 はそれぞれのデスティネーションは、コントローラーがそれぞれのデスティネーションに設定したコネクションをテーブルとして有していることを示している。

【0160】

図 24 に示すように、それぞれのデスティネーションノード 0、1、2 は、同一のコネクション ID が設定されているため、デスティネーションノード 0、1、2 が有するコネクションテーブルは、すべて同一となっている。

【0161】

ソースは、デスティネーションノード 0、1、2 に同時に同一データを送信する場合は、ソースが有するコネクションテーブルのコネクション ID=0 (h) から、Asynchronous Write パケットのヘッダーのデスティネーション ID に、コネクション ID=0 (h) のマルチキャスト ID=3FE00 (h) を付加し、デスティネーションオフセットアドレスに同じくテーブルのデスティネーションオフセットアドレスフィールド=FFFF E000 0000 (h) を付加して、本実施の形態で定義したペイロード内のヘッダーにコネクション ID=0 (h) を付加して同一の Asynchronous White パケットを送信する。

【0162】

受信時は、デスティネーションノード 0、1、2 は、自身が有するコネクションテーブルから、マルチキャスト ID=3FE00 (h) と取り込んだ Asynchronous Write パケットのデスティネーション ID=3FE00 (h) を比較し、同一であるので、自身宛のパケットとしてデータを取り込む。

【0163】

次に、同パケットのデスティネーションオフセットアドレスを自身のテーブルのデスティネーションオフセットアドレスフィールド=FFFF E000 0

000 (h)と比較し、同一であるので、自身宛のパケットとしてデータを取り込み、設定されているコネクションであることを判別しデータをコネクションID=0 (h)用の内部バッファに取り込む。

## 【0164】

デスティネーションノード#nは、自分の有するコネクションテーブルから、マルチキャストID=3FE04 (h)と、取り込んだAsynchronous WriteパケットのデスティネーションID=3FE00 (h)を比較し、同一でないので、パケットとしてデータを取り込まない。

## 【0165】

また、ソースから、デスティネーションノード#nにデータを送信する場合は、ソースが有するコネクションテーブルのコネクションID=4 (h)から、Asynchronous WriteパケットのヘッダーのデスティネーションIDに、コネクションID=4 (h)のマルチキャストID=3FE04 (h)を付加して、デスティネーションオフセットアドレスに同じくテーブルのデスティネーションオフセットアドレスフィールド=FFFF E000 0000 (h)を付加して、本提案で定義したペイロード内のヘッダーにコネクションID=4 (h)を付加してAsynchronous Writeパケットを送信する。

## 【0166】

受信デスティネーションノード#nは、自身が有するコネクションテーブルから、マルチキャストID=3FE04 (h)と取り込んだAsynchronous WriteパケットのデスティネーションID=3FE04 (h)を比較する。次に、同パケットのデスティネーションオフセットアドレスを自身のテーブルのデスティネーションオフセットアドレスフィールド=FFFF E000 0000 (h)と比較し、同一であるので、自身宛のパケットとしてデータを取り込み、コネクションID=4 (h)用のデータをバッファに取り込む。

## 【0167】

この時、デスティネーションノード0、1、2は、自分の有するコネクションテーブルから、マルチキャストID=3FE00 (h)と、取り込んだAsynchronous WriteパケットのデスティネーションID=3FE04 (h)を比較し、同

一でないので、パケットとしてデータを取り込まない。図 24 には示していないが、ソースも同様なテーブルを有することはいうまでもない。

## 【0168】

図 25 に、コントローラーとソースデスティネーションの接続構成を示す。ソース、デスティネーションは、あらかじめ通知された接続 ID によって、接続を判別することは、第 1 の実施の形態と同じである。

## 【0169】

コントローラーは、1 個のソースと、1 個のデスティネーション間に複数の異なる接続を設定していることを示す。コントローラーは、現在コントローラーが設定しているすべての接続をテーブルとして有している。

## 【0170】

コントローラーは、合計 3 個の接続 ID = 0 (h)、1 (h)、2 (h) でデスティネーションノードに対して、ソースノードと接続を設定している。それぞれの接続 ID で接続されているデスティネーションの総数 = 1 (h) をテーブルのそれぞれの Total number of destination field 記録しておく。

## 【0171】

図 25 に示すデスティネーションノードは、コントローラーがデスティネーションに設定した接続をテーブルとして有していることを示している。

図 25 に示すように、デスティネーションノードは、接続 ID = 0 (h)、1 (h)、2 (h) が設定されているため、デスティネーションノードが有する接続テーブルは、接続 ID 毎にマルチキャスト ID は、同一であるが、デスティネーションオフセットアドレスが異なっている。

## 【0172】

ソースは、デスティネーションノードに接続毎に異なるデータを送信する場合がある。以下、このような場合について説明する。

まず、ソースが有する接続テーブルの接続 ID = 0 (h) を用いて、データを送信する場合は、Asynchronous Write パケットのヘッダーのデスティネーション ID に、接続 ID = 0 (h) のマルチキャスト ID =

3FE00 (h) を付加して、デスティネーションオフセットアドレスに同じくテーブルのデスティネーションオフセットアドレスフィールド=FFFF E000 0000 (h) を付加して、本実施の形態で定義したペイロード内のヘッダーにコネクションID=0 (h) を付加して同一のAsynchronous Writeパケットを送信する。

## 【0173】

受信時は、デスティネーションノードは、自身が有するコネクションテーブルから、マルチキャストID=3FE00 (h) と取り込んだAsynchronous WriteパケットのデスティネーションID=3FE00 (h) を比較し、同一であるので、自身宛のパケットとしてデータを取り込む。次に同パケットのデスティネーションオフセットアドレスを自身のテーブルのデスティネーションオフセットアドレスフィールド=FFFF E000 0000 (h) と比較し、コネクションID=0 と同一であるので、設定されているコネクションであることを判別しデータをコネクションID=0 (h) 用のバッファに取り込む。

以下、コネクションID=1 (h)、2 (h) は同様に処理される。

## 【0174】

(本発明の他の実施形態)

本発明は複数の機器（例えば、ホストコンピュータ、インタフェース機器、リーダ、プリンタ等）から構成されるシステムに適用しても1つの機器からなる装置に適用しても良い。

## 【0175】

また、前述した実施形態の機能を実現するように各種のデバイスを動作させるように、前記各種デバイスと接続された装置あるいはシステム内のコンピュータに対し、前記実施形態の機能を実現するためのソフトウェアのプログラムコードを供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（CPUあるいはMPU）に格納されたプログラムに従って前記各種デバイスを動作させることによって実施したものも、本発明の範疇に含まれる。

## 【0176】

また、この場合、前記ソフトウェアのプログラムコード自体が前述した実施形



態の機能を実現することになり、そのプログラムコード自体、およびそのプログラムコードをコンピュータに供給するための手段、例えばかかるプログラムコードを格納した記憶媒体は本発明を構成する。かかるプログラムコードを記憶する記憶媒体としては、例えばフロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROM等を用いることができる。

## 【0177】

また、コンピュータが供給されたプログラムコードを実行することにより、前述の実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードがコンピュータにおいて稼働しているOS（オペレーティングシステム）あるいは他のアプリケーションソフト等の共同して前述の実施形態の機能が実現される場合にもかかるプログラムコードは本発明の実施形態に含まれることは言うまでもない。

## 【0178】

さらに、供給されたプログラムコードがコンピュータの機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに格納された後、そのプログラムコードの指示に基づいてその機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPU等が実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合にも本発明に含まれることは言うまでもない。

## 【0179】

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明においては、従来の通信方式による不便利性を解決することができる効果が得られる。

また、リアルタイム性を必要としないデータ転送においても、簡便に高速にデータを転送することが可能となる効果が得られる。

また、本発明によれば、通信帯域をあまり使用しない場合に、多数の通信を同時に行なうことができる効果が得られる。

また、本発明によれば、データ転送中断により失われたデータを容易に検出することが可能であるとともに、該データ転送の中断からの復帰を、確実に、かつ、簡単に行なうことができる効果が得られる。

また、本発明によれば、複数のコントロール間でコネクションIDが重複しないように調整する必要がないので、コントローラは、簡単に確実にコネクションを設定できる効果が得られる。

また、本発明によれば、複数のコントロールノードが個別に複数の論理的コネクションをソース、デスティネーション間に設定した場合も、個々のノードは、コネクションを設定したコントローラを上記ノード固有の情報であるワールドワイドユニークIDなどの固有のノードIDにて判別することが可能となるので、個々のノードは、確実に論理的コネクションを識別できる効果が得られる。

また、本発明によれば、1個の論理的コネクションIDにより、容易に複数のデスティネーションに対してデーターを単一セグメントパケットで送信することができるため、バス上のトラフィックを低減する効果が得られる。

また、コネクションIDを複数設定する必要がないためコントローラのコネクションIDの初期設定が容易となる効果が得られる。

また、本発明によれば、それぞれのデスティネーションの受信バッファが異なっても、ソースは、それぞれのデスティネーションの受信バッファサイズのみを管理して送信するだけで良いため、ソースは、同一のデーターフローでよく、実装が容易となる効果が得られる。

また、本発明によれば、1個のソースノードからN個の複数のデスティネーションに対して同一オブジェクトを転送する場合も、N個のセグメントをそれぞれのデスティネーションに送付する必要がなく単一のセグメントで効率よく転送できるため、1394バス上のトラフィックを増大させることがないという効果が得られる。

また、本発明によれば、マルチキャスト用にローカルバス以外のBus IDを使用するため、従来の1394規格の機器がローカルのブロードキャストとして認識し、受信してしまいうという不要な処理がなくなるので、従来の機器への影響がないという効果が得られる。

また、本発明によれば、個別のマルチキャストIDを使用するため、本発明に準拠した機器は、ブロードキャストAsynchronous Write トランザクションを使用する場合に比較して、Asynchronous Write パケットのdestination ID にか

かれたマルチキャストIDとコントローラから通知されたマルチキャストIDを比較するだけでパケットを取り込むかどうかを判断できるため、処理が低減去れるという効果が得られる。

また、本発明によれば、デスティネーションのoffsetアドレスをコネクションIDを対応させたことにより、63以上の論理的コネクションを設定できるという効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態を表すブロック図である。

【図2】

本発明に係る各ノードの動作を示すブロック図である。

【図3】

本発明に係る各ノード間のコマンドやデータの授受を示すダイアグラムを示す図である。

【図4】

本発明にかかるAsynchronousパケットを示す図である。

【図5】

本発明の実施の形態で用いられるAsynchronousパケットを示す図である。

【図6】

本発明の実施の形態で用いられるAsynchronousパケットのデータフィールドの構造を示す図である。

【図7】

本発明の実施の形態で用いられるデータフィールド中のヘッダの構造を示す図である。

【図8】

従来例を示す図である。

【図9】

本発明の実施の形態で用いられるコントロールノードの有する固有識別情報を示す図である。

【図 10】

本発明の実施の形態で用いられる図 3 (a) にて説明した、フローを補足する全体のフローを示す図である。

【図 11】

本発明の実施の形態で用いられる 1 つのコントローラがネットワーク上に同一のコネクション ID を 1 つのソースと N 個のデスティネーション間に設定した構成を示す図である。

【図 12】

本発明の実施の形態で用いられるそれぞれのデスティネーションが同一の受信バッファサイズを有し、オブジェクトデータサイズが該受信バッファに等しい場合を示す図である。

【図 13】

本発明の実施の形態で用いられるオブジェクトデータの転送のモデルを示す図である。

【図 14】

本発明の実施の形態で用いられる 3 個のそれぞれのデスティネーションが異なる受信バッファサイズを有するネットワークにおけるデータ転送のフローを示す図である。

【図 15】

本発明の実施の形態で用いられる異なる受信バッファの場合を示したものであり、ここでは、簡単のためデスティネーションの数  $N=2$  としていることを示す図である。

【図 16】

IEEE1394-1995 にて示されている Asynchronous の DestinationID を示す図である。

【図 17】

本発明の第 2 の実施の形態で用いられるマルチキャストにおけるブロードキャスト ID の例を示す図である。

【図 18】

本発明の実施の形態で用いられるマルチキャストIDを示す図である。

【図19】

本発明の第2～4の実施の形態で用いられるコントローラ、ソース、ターゲットの有する接続IDテーブルを示す図である。

【図20】

本発明の第2～4の実施の形態で用いられるコントローラの有する接続IDテーブルを示す図である。

【図21】

本発明の第1～3実施の形態で用いられるペイロード内のヘッダー構成を示す図である。

【図22】

本発明の第4の実施の形態で用いられるペイロード内のヘッダー構成を示す図である。

【図23】

本発明の第4の実施の形態で用いられるペイロード内のヘッダーを示す図である。

【図24】

本発明の第2～4の実施の形態で用いられるコントローラとデスティネーションの有する接続IDとマルチキャストIDとデスティネーションオフセットアドレスのテーブルを示す図である。

【図25】

コントローラとソースデスティネーションの接続構成を示す図である。

【符号の説明】

- 10 computer
- 12 演算処理装置(MPU)
- 14 第一の1394インターフェイス
- 16 キーボードなど第一の操作部
- 18 第一のデコーダ
- 20 CRT ディスプレイなどの表示装置

- 22 ハードディスク
- 24 第一のメモリ
- 26 PCI バスなどのコンピュータ内部バス
- 28 VCR
- 30 撮像光学系
- 32 A/D 変換器
- 34 ビデオ処理部
- 36 圧縮伸長回路
- 38 第一のメモリ
- 40 第二のメモリ
- 42 第一のデータセレクタ
- 44 第二の1394インターフェイス
- 46 第一のメモリ制御回路
- 48 第二のメモリ制御回路
- 50 システムコントローラ
- 52 第二の操作部
- 54 電子ビューファインダ
- 56 D/A 変換器
- 58 記録部
- 60 プリンタ
- 62 第三の1394インターフェイス
- 64 第二のデータセレクタ
- 66 第三の操作部
- 68 プリンタコントローラ
- 70 第二のデコーダ
- 72 第三のメモリ
- 74 画像処理部
- 76 ドライバ
- 78 プリンタヘッド

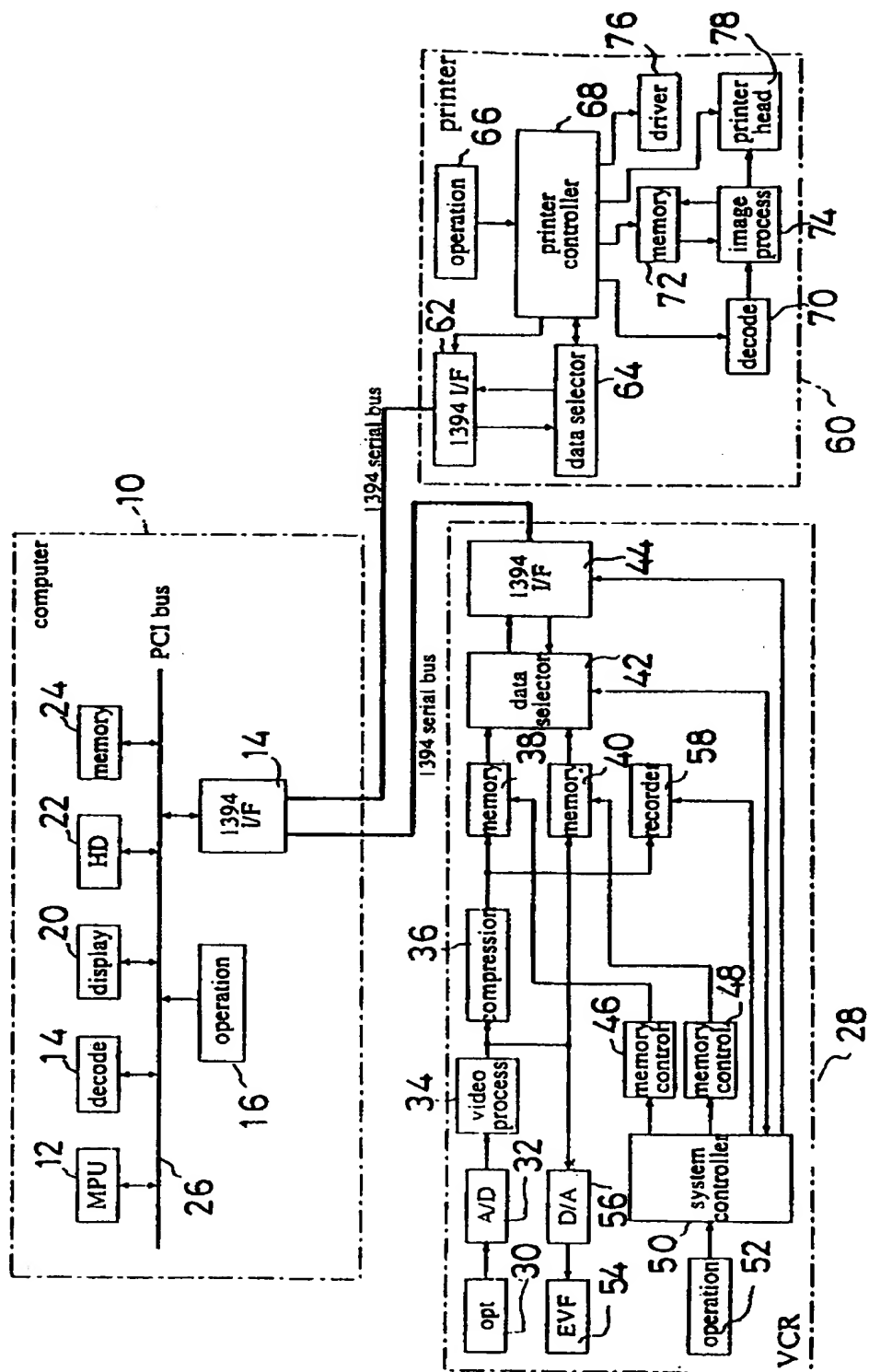
- 200 コントロールノード
- 202 ソースノード
- 204 デスティネーションノード
- 206 ソースノード内部のサブユニット
- 208 画像データ等のobject
- 210 デスティネーションノード内部の第一のメモリ空間
- 212 第一のコネクション
- 214 デスティネーションノード内部の第n のメモリ空間
- 216 第n のコネクション

特平 10-057268

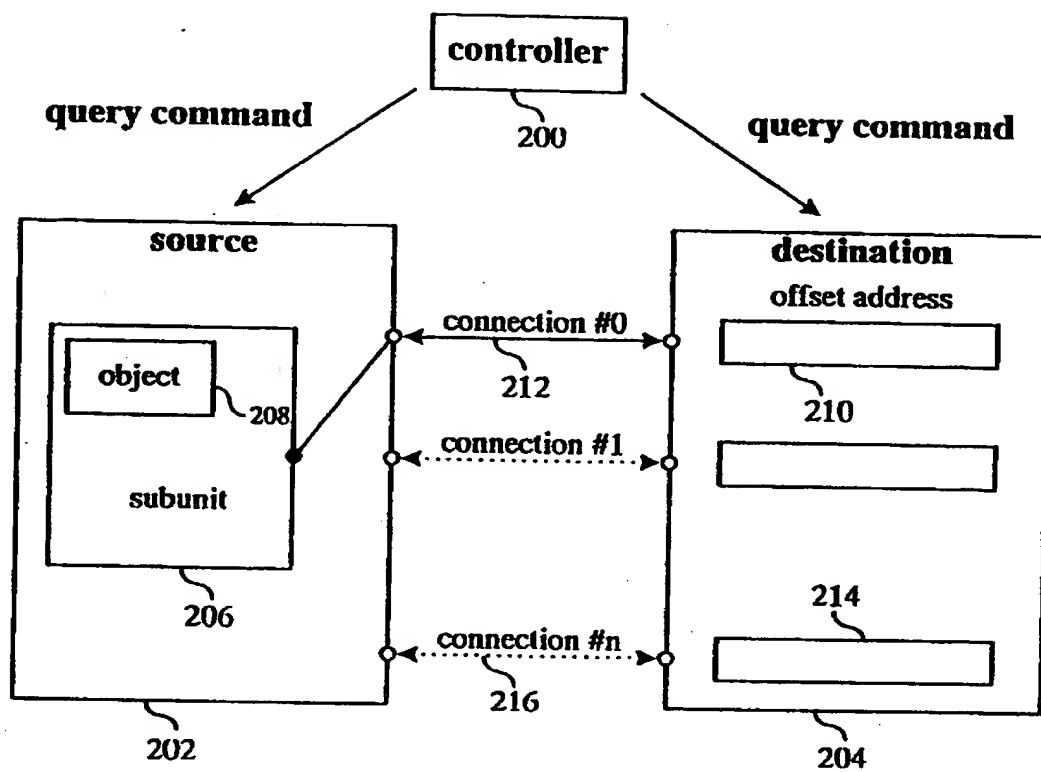
【書類名】 図面



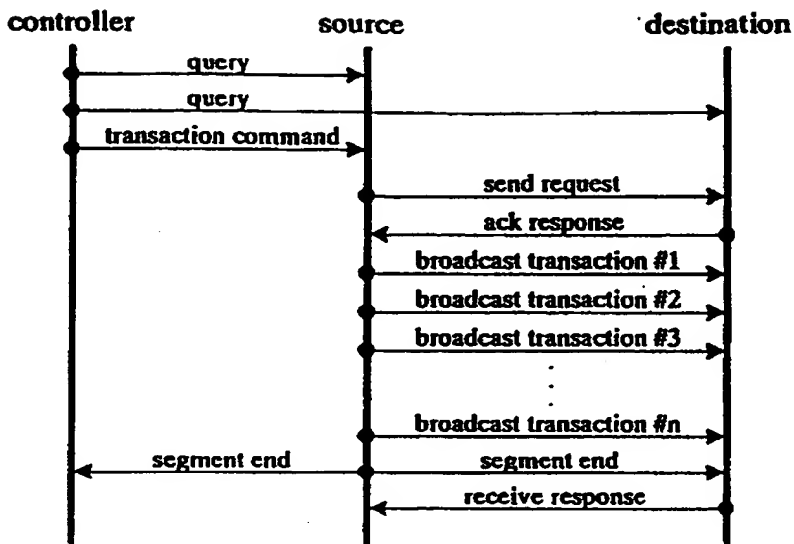
【図 1】



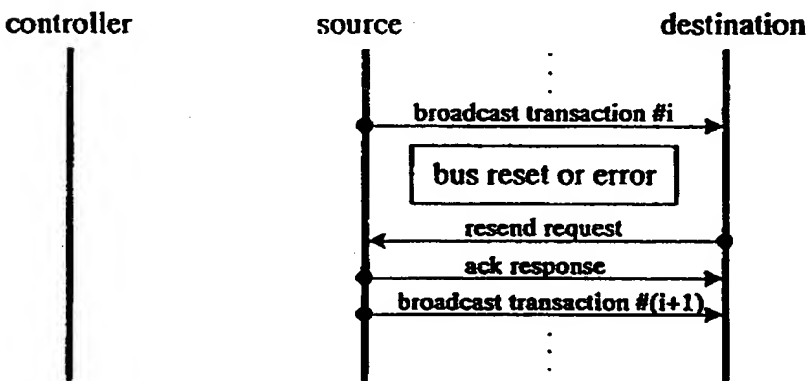
【図 2】



【図 3】

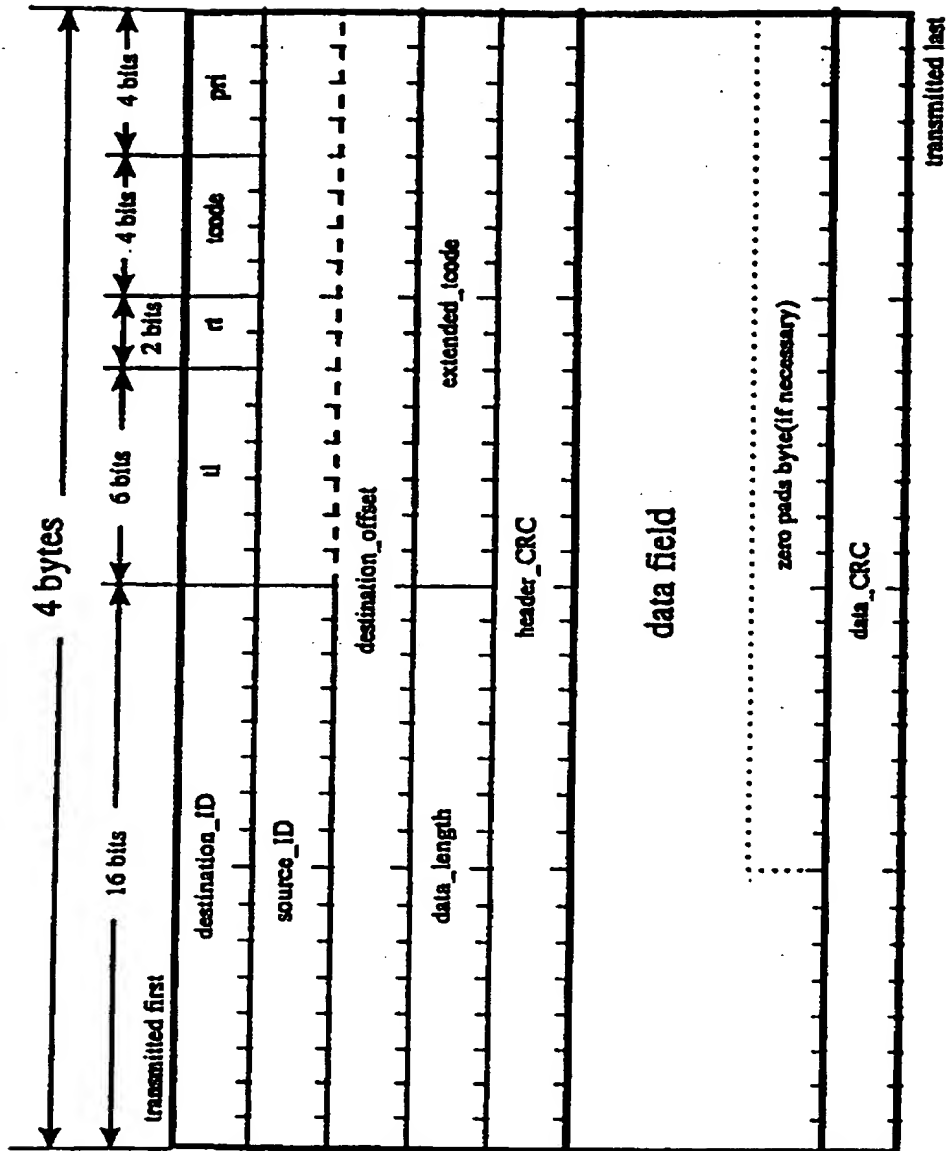


(a)

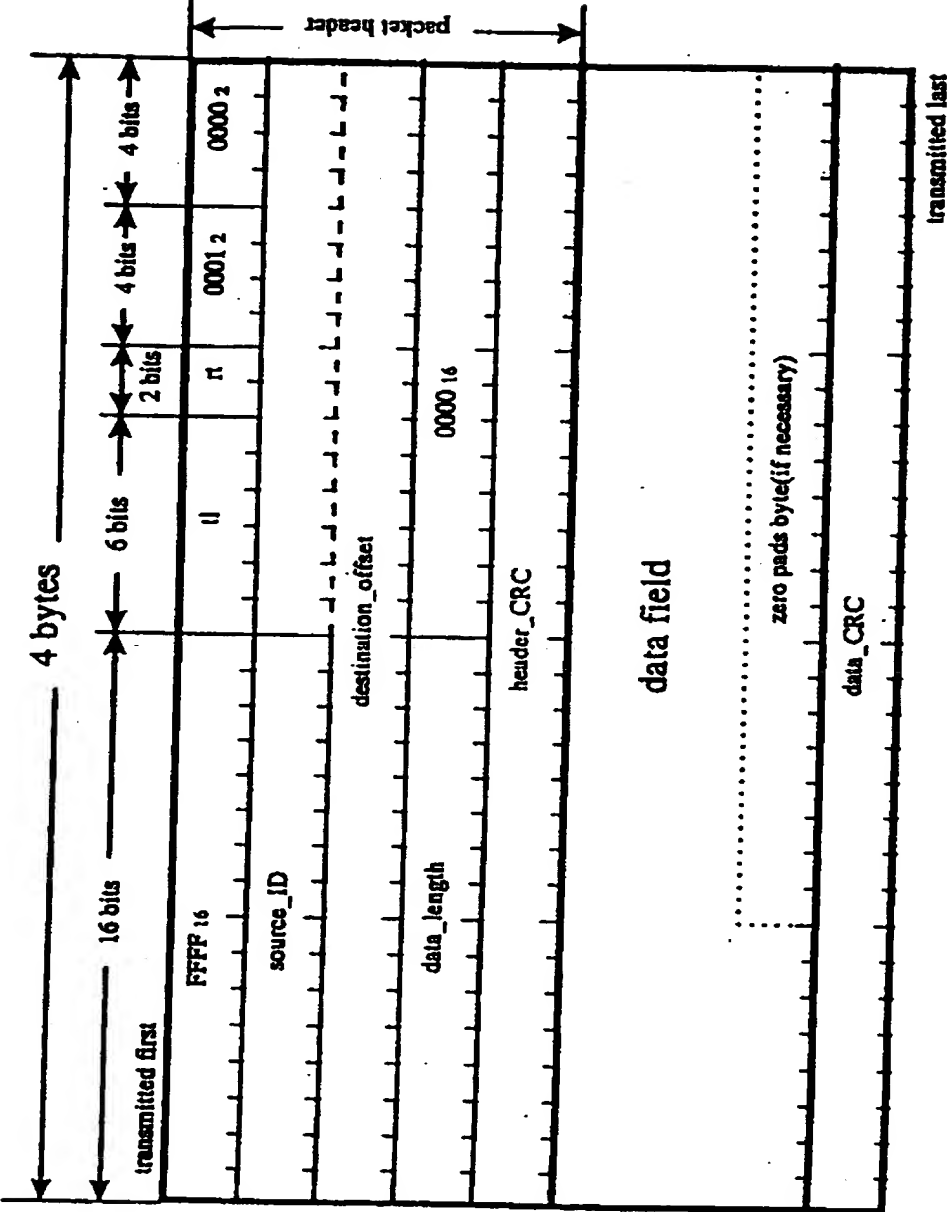


(b)

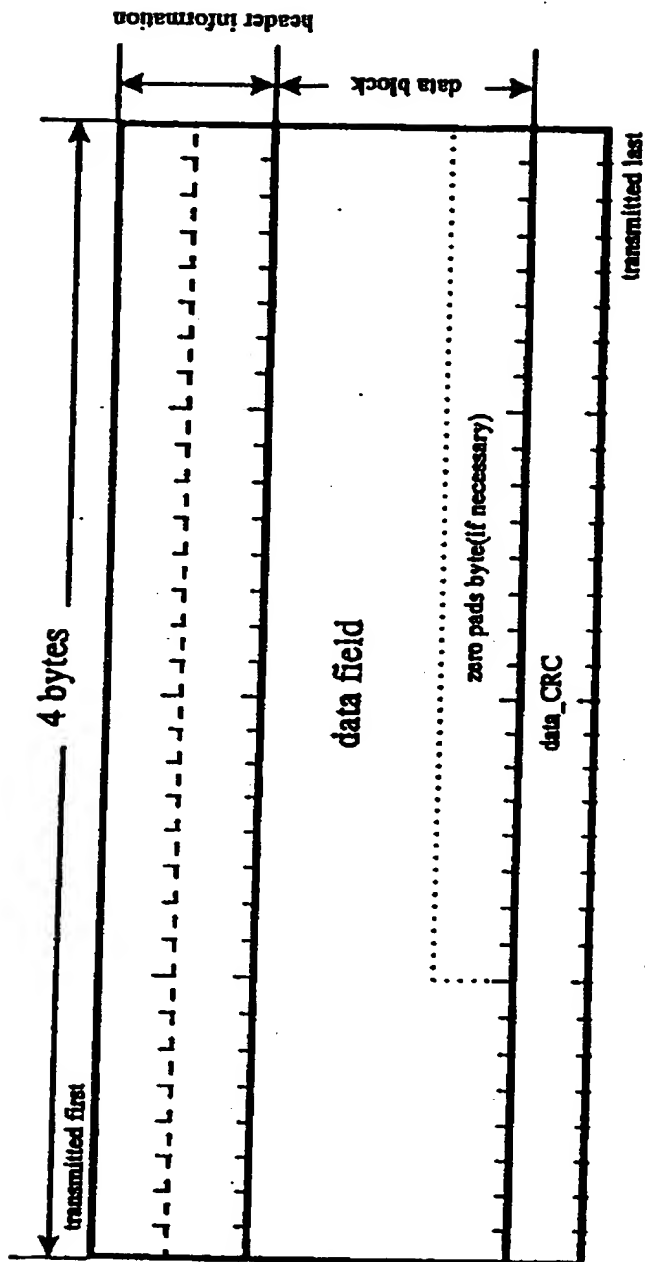
【図 4】



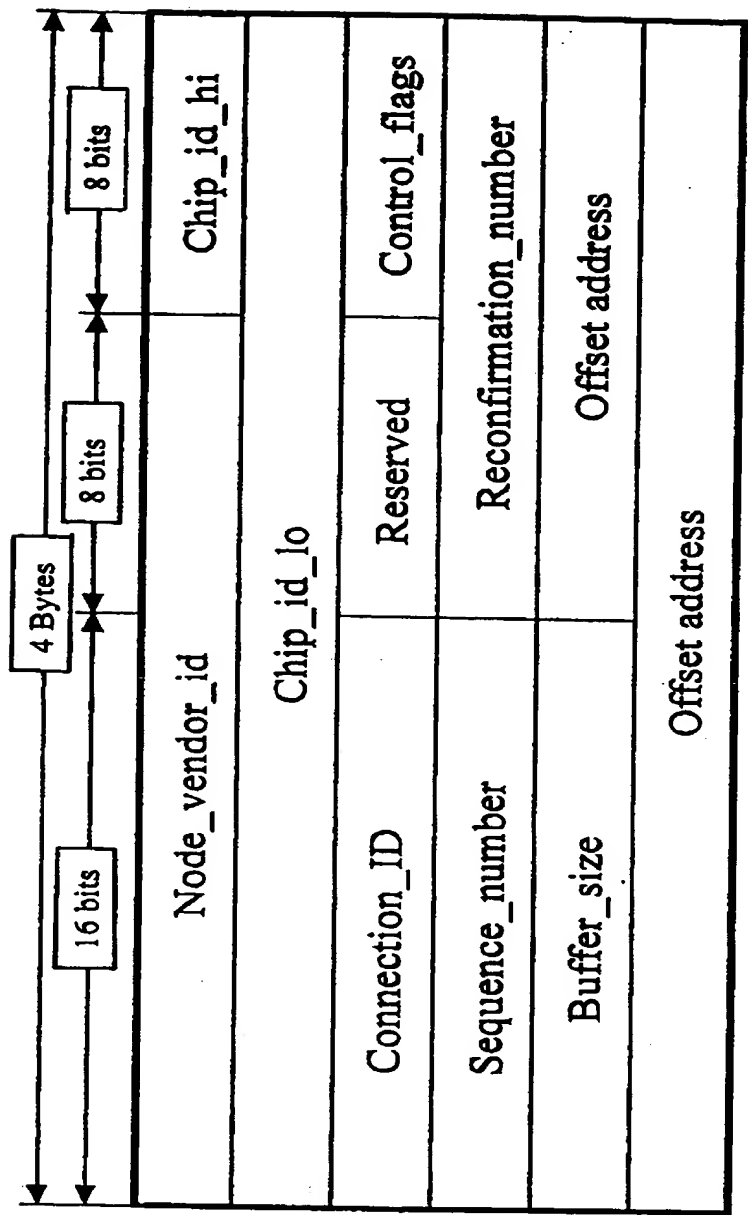
【図 5】



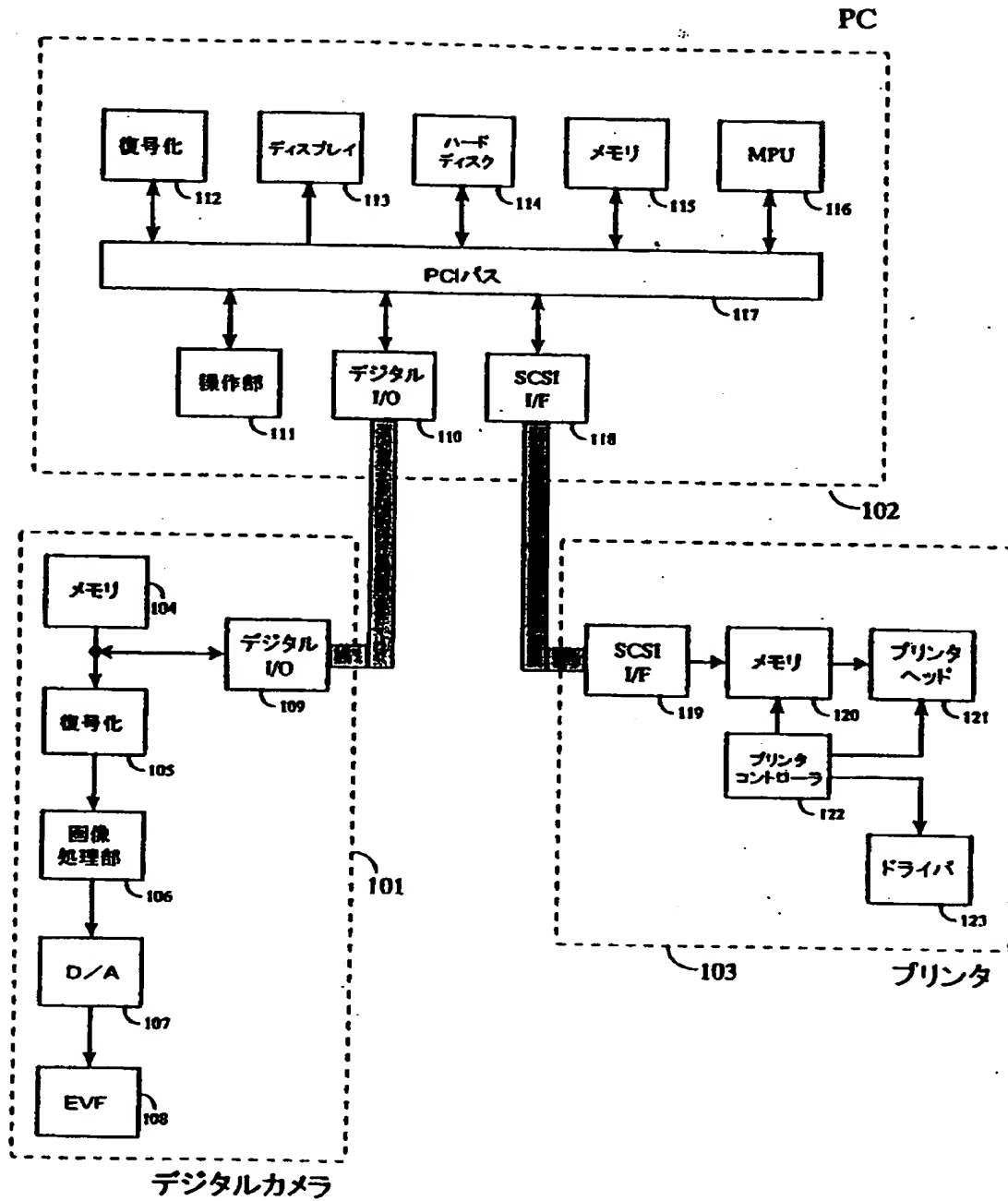
【図 6】



【図 7】

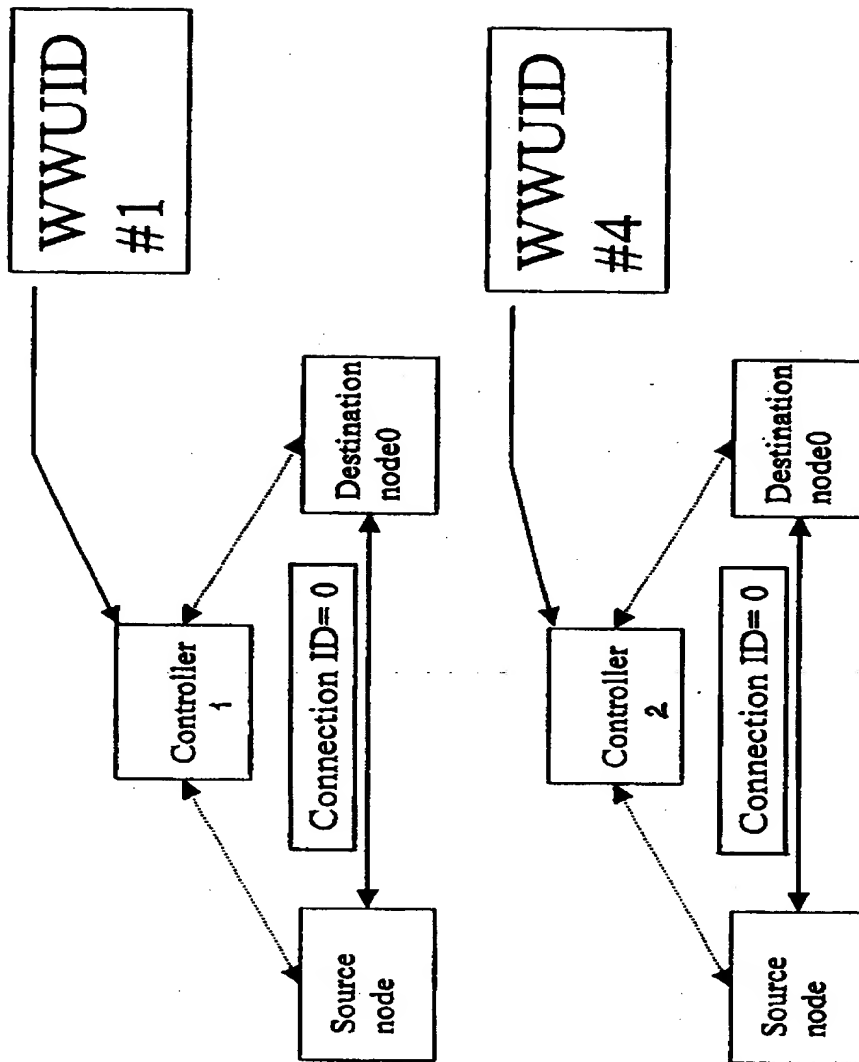


【図 8】



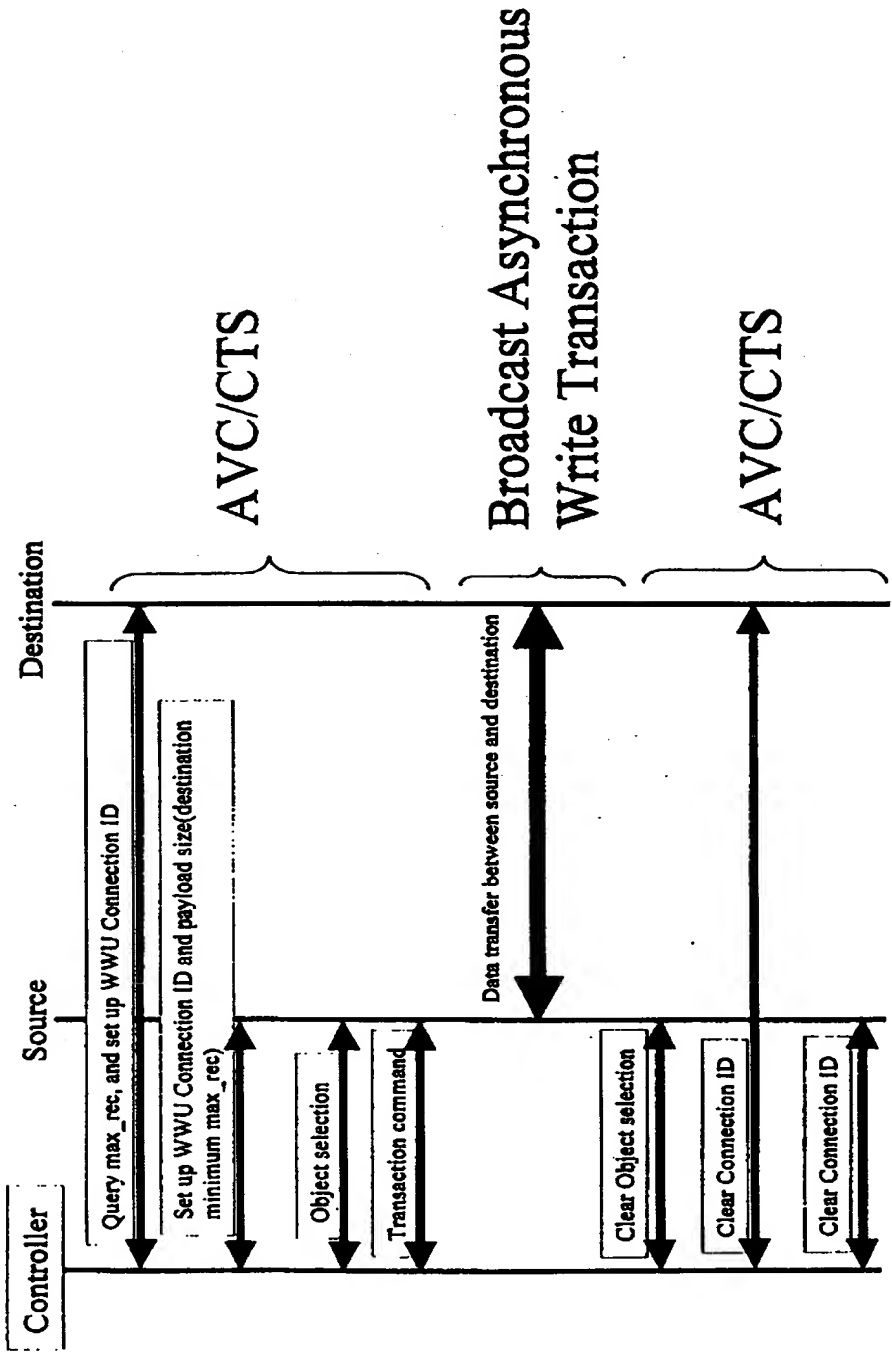


【図9】

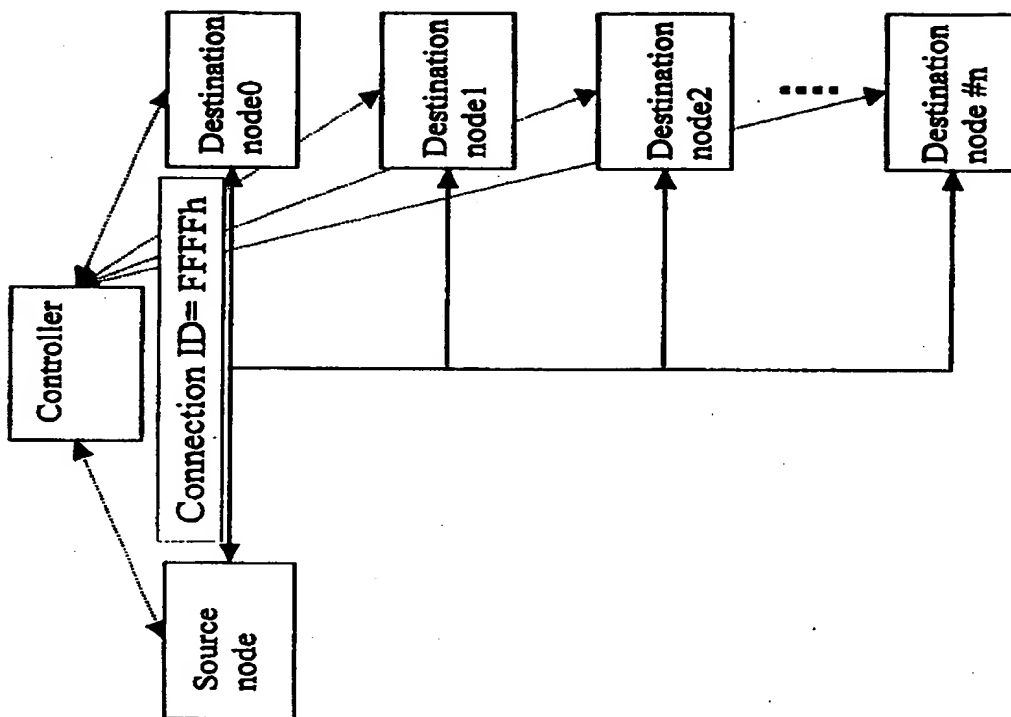


【图 10】

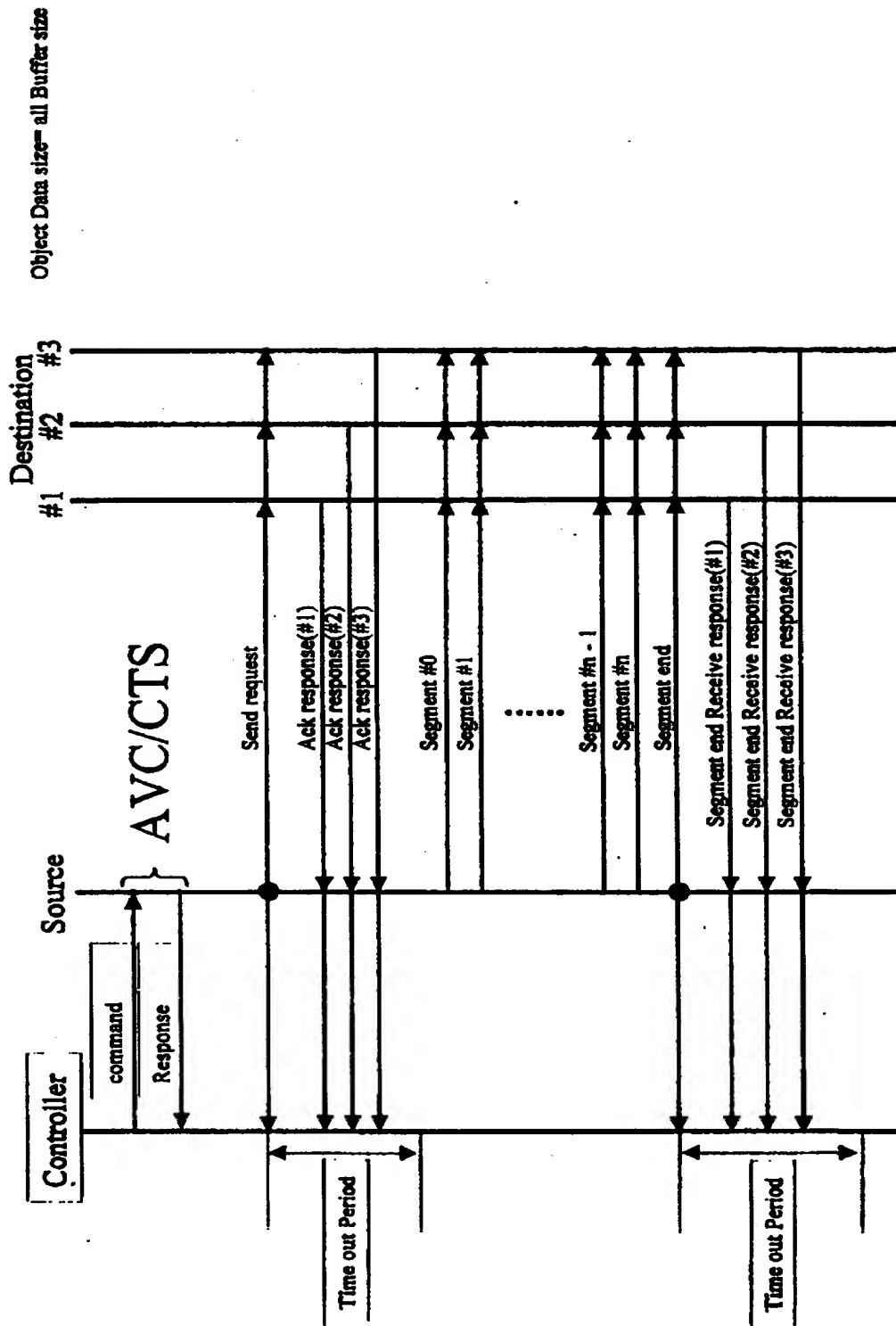
General Flow



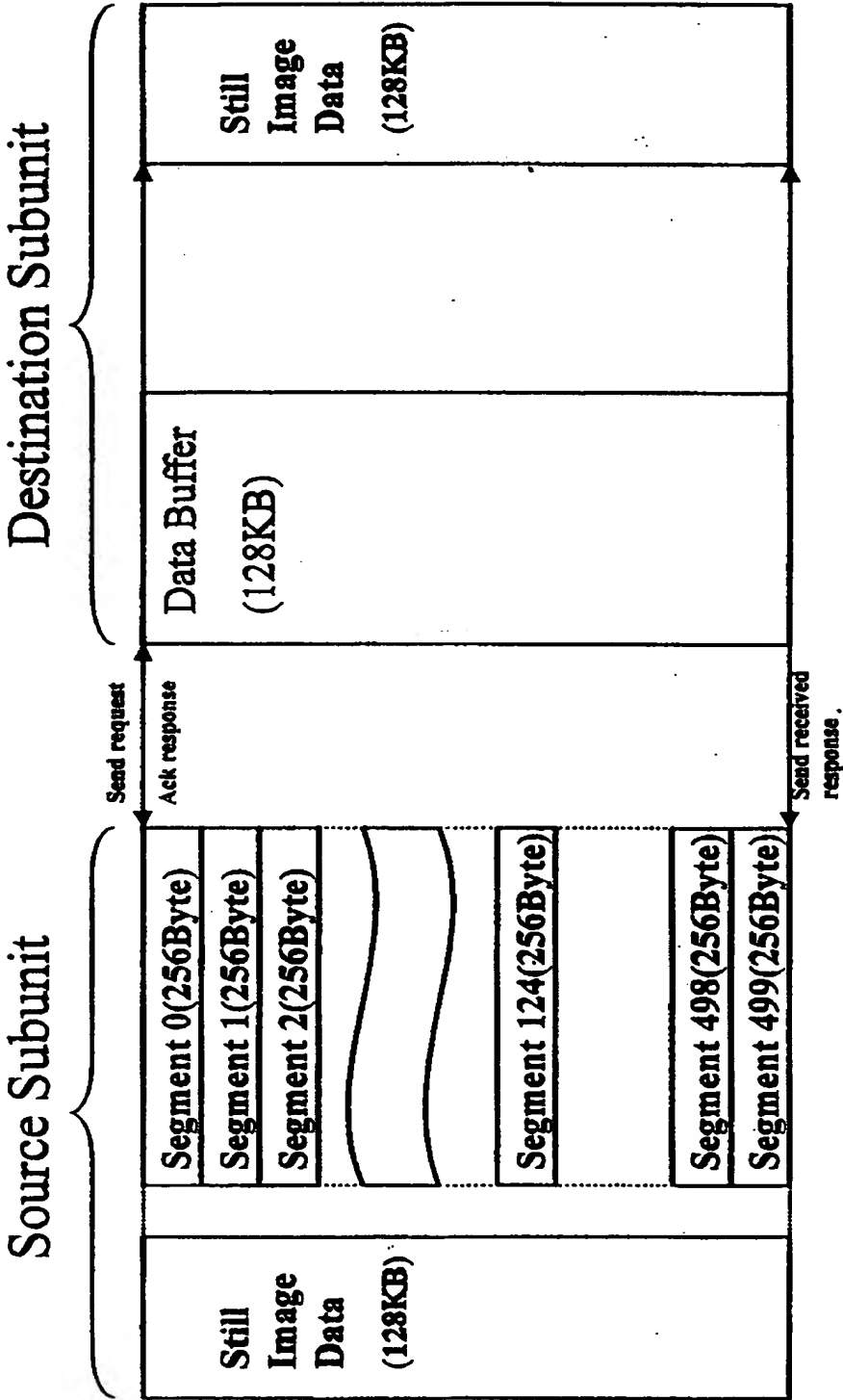
【図 1 1】



【図 12】

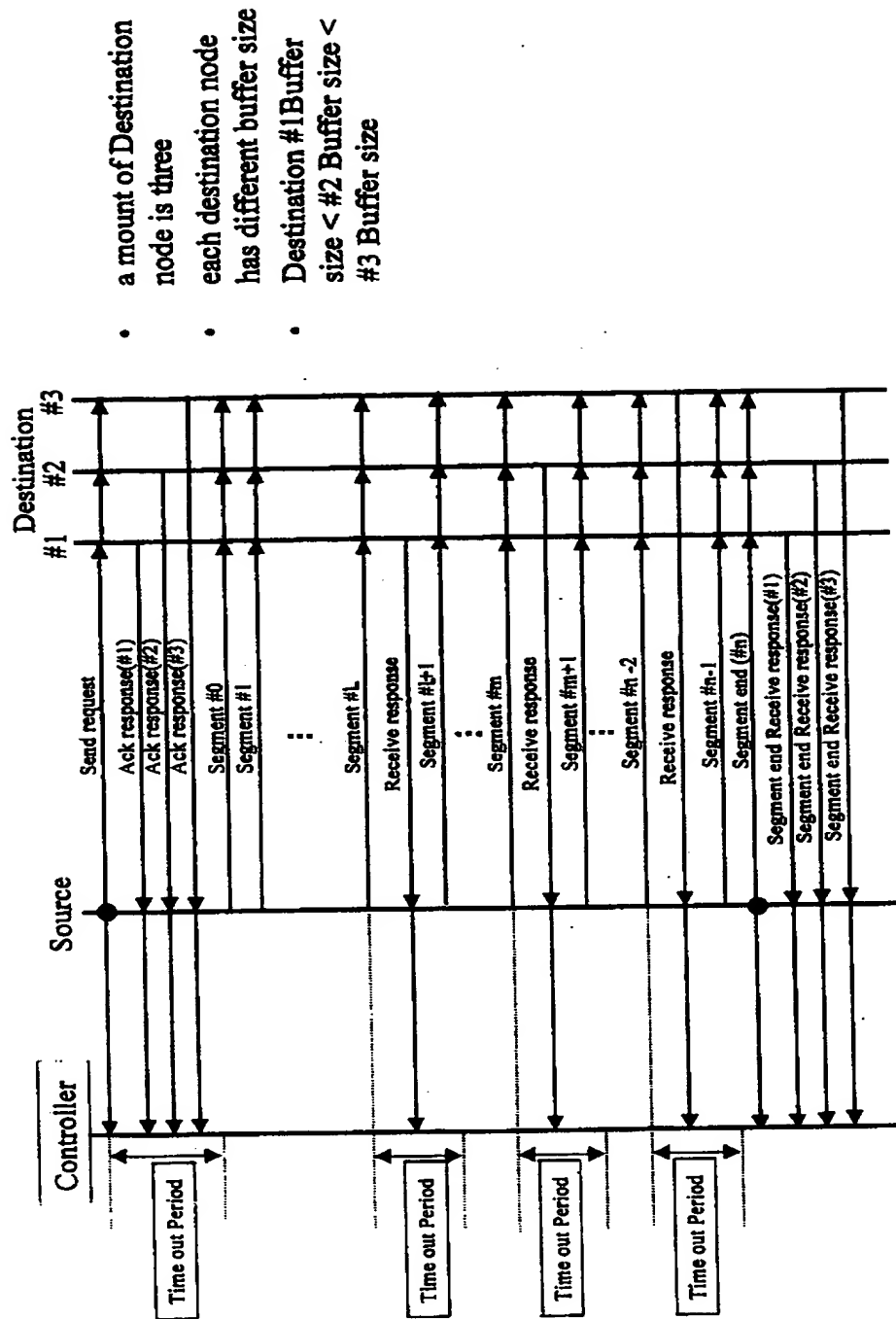


【図 13】



【図 14】

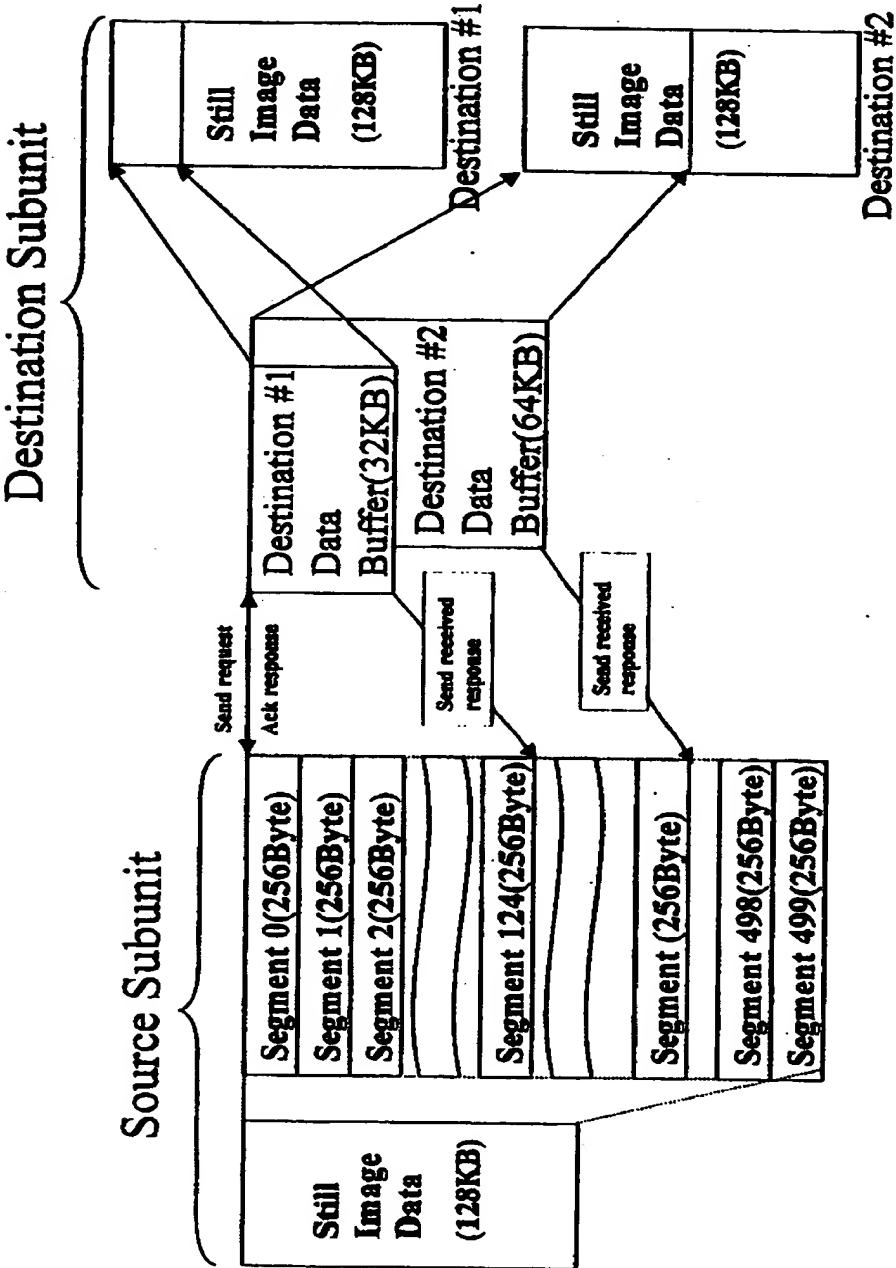
# Transfer Flow4 (1 to N)



- a mount of Destination node is three
- each destination node has differnt buffer size
- Destination #1 Buffer size < #2 Buffer size < #3 Buffer size

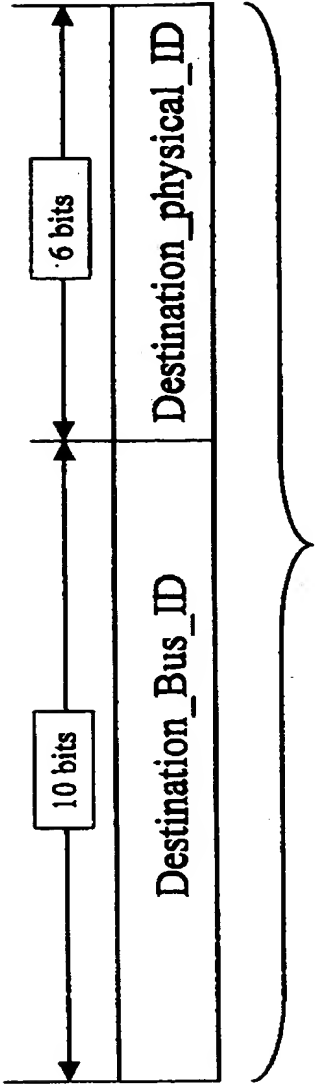
【図 15】

Transfer Model(1 to N)  
• Example of Segmentation



【図 16】

Header field

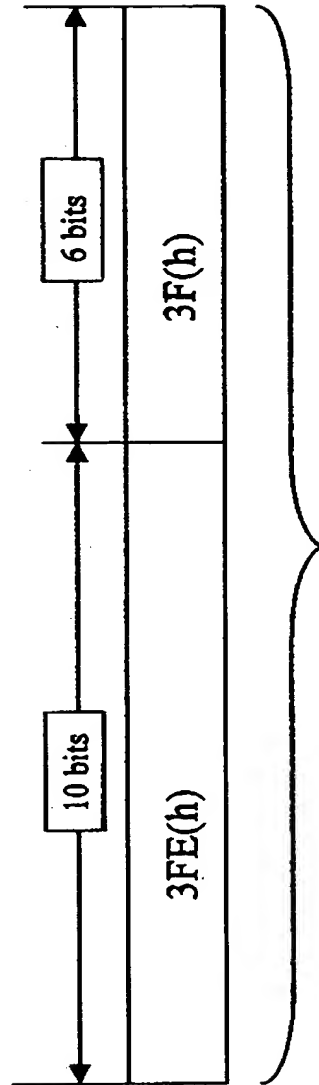


Destination ID



【図 17】

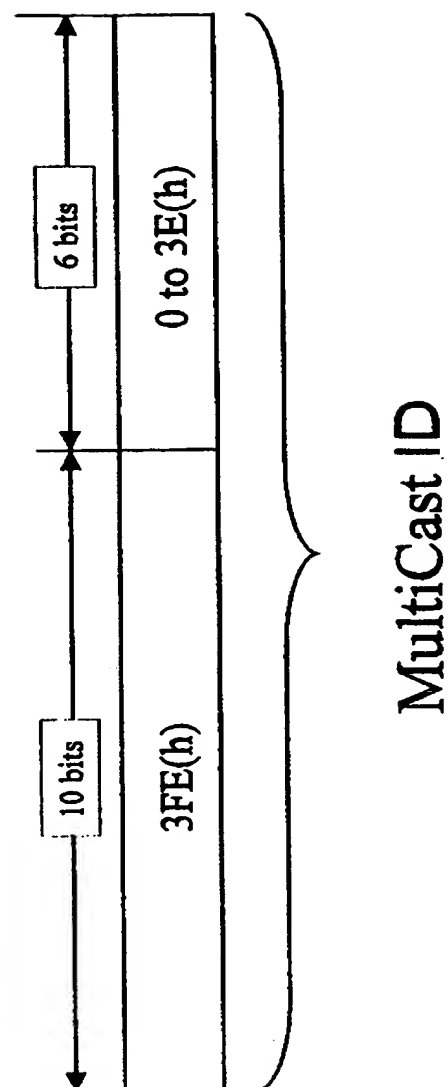
# Header field



## MultiCast における BroadcastID

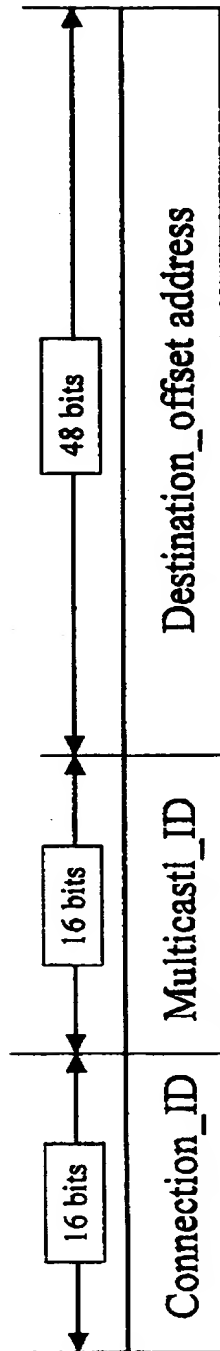
【図 1 8】

# Header field



【図 1 9】

# ConnectionID table



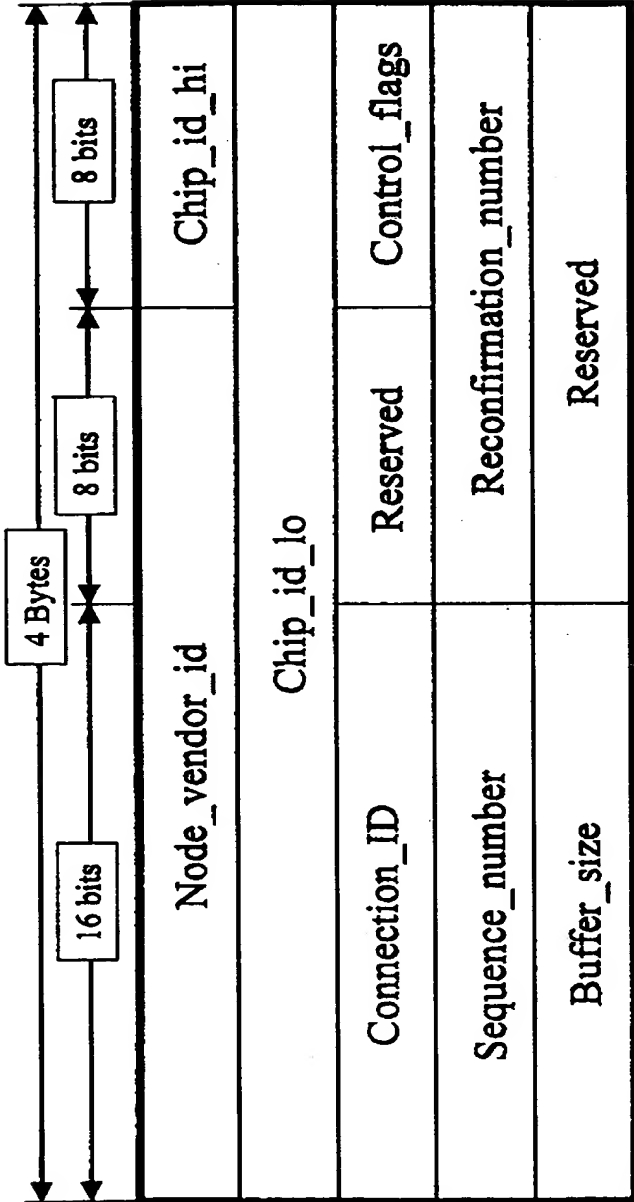
【図 20】

Connection ID table

16 bits		16 bits		48 bits		6 bits
0(h)		3FE(h)	0(h)	FFFF E000 0000(h)		0(h)
1(h)		3FE(h)	0(h)	FFFF E000 0100(h)		0(h)
2(h)		3FE(h)	0(h)	FFFF E000 0200(h)		0(h)
3(h)		3FE(h)	1(h)	FFFF E000 0300(h)		0(h)
4(h)		3FE(h)	4(h)	FFFF E000 0400(h)		0(h)
Connection_ID field		Multicastl_ID field		Destination_offset address field		Total number of destination field

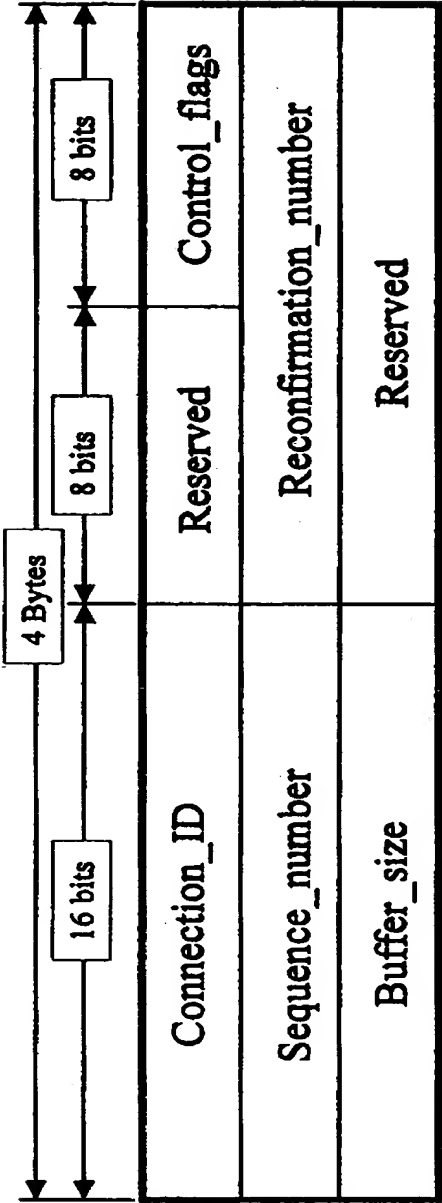
【图 2 1】

# Multicast ID :Header field example



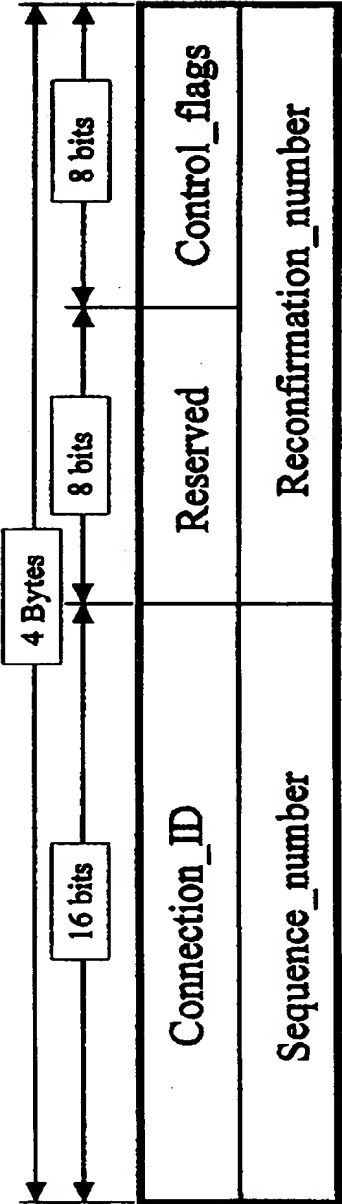
【図 2 2】

# Header field

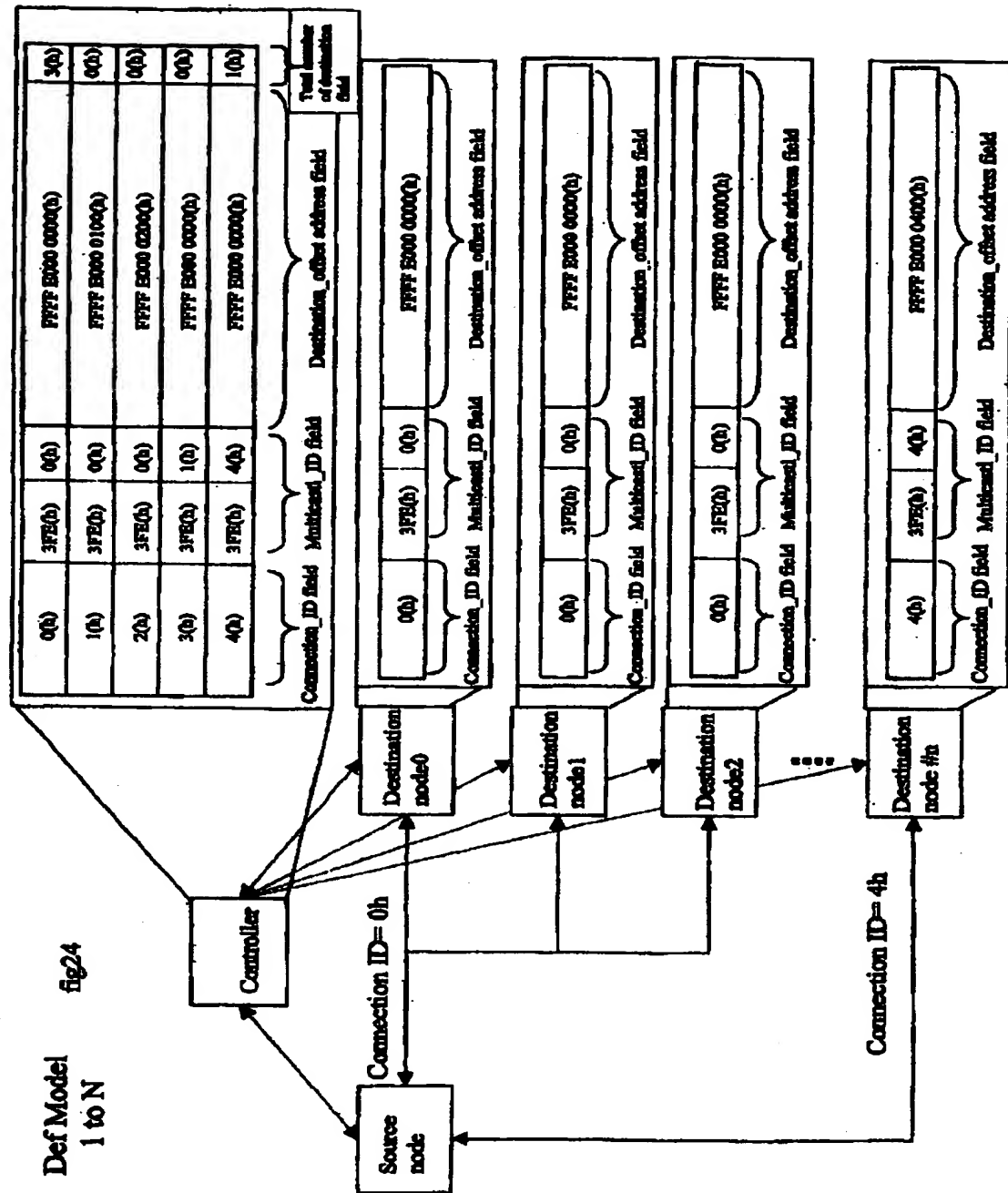


【図 2 3】

Header field

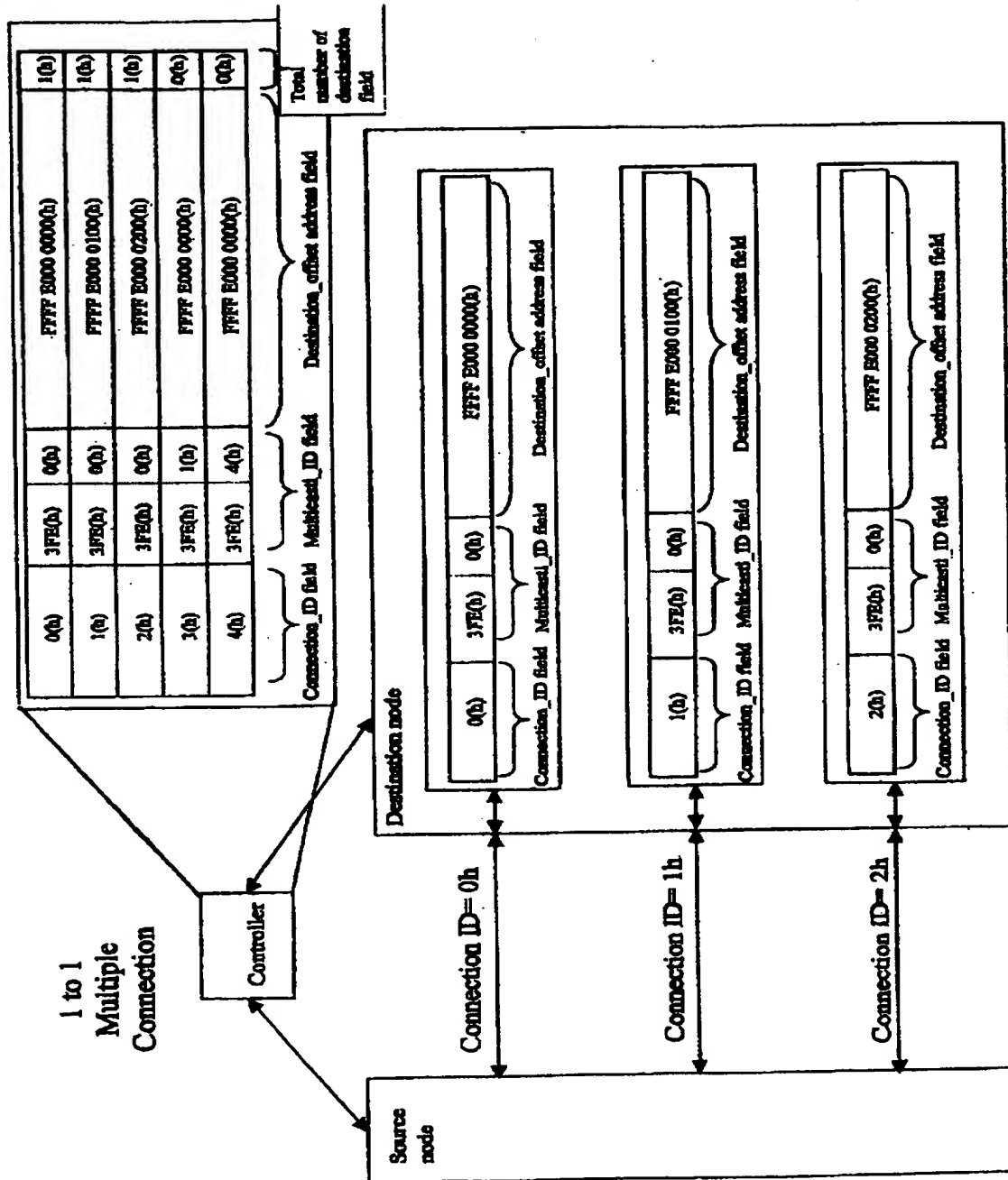


【図 24】





【図 25】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 制御信号とデータを混在させて通信することが可能なデータ通信バスを用いて複数の電子機器間を接続して、各機器間でデータ通信を行うデータ通信を行うことができるようにする。

【解決手段】 複数の機器に含まれるN個の機器により構成される仮想的な通信関係を示す第1のID情報と、該N個の機器間において通信される情報データを判別する第2のID情報とを用いて前記情報データの通信を行うようにして、従来の通信方式の不便利性を解決し、リアルタイム性を必要としないデータ転送においても、簡便にかつ高速にマルチキャスト転送を実現できるようにする。

【選択図】 図1

【書類名】 職権訂正データ  
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100090273

【住所又は居所】 東京都豊島区東池袋1丁目17番8号 池袋TGホ  
ーメストビル5階 國分特許事務所

【氏名又は名称】 國分 孝悦



特平10-057268

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号  
氏 名 キヤノン株式会社